

千葉市土気東遺跡群調査概報

黒ハギ遺跡
奥房台遺跡
五十石西遺跡
五十石遺跡
北河原坂第1遺跡
長塚遺跡
上塚遺跡
文六西第1遺跡
文六西第2遺跡
文六東第1遺跡
文六東第2遺跡
宮台遺跡

2009

千葉市土気東土地区画整理組合
財団法人 千葉市教育振興財団

千葉市土気東遺跡群調査概報

黒ハギ遺跡
奥房台遺跡
五十石西遺跡
五十石遺跡
北河原坂第1遺跡
長塚遺跡
上塚遺跡
文六西第1遺跡
文六西第2遺跡
文六東第1遺跡
文六東第2遺跡
宮台遺跡

2009

千葉市土気東土地区画整理組合
財団法人 千葉市教育振興財団

例言

- 1 本書は、千葉市緑区土気町・小食土町地先に所在する土氣東遺跡群の発掘調査概報である。発掘調査は土氣東土地区画整理事業に伴うもので、事業地内に所在する全体の遺跡群を土氣東遺跡群と統称している。
- 2 調査は、千葉市土氣東土地区画整理組合の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化課および生涯学習振興課の指導のもと、平成 13 年度まで財団法人千葉市文化財調査協会が、平成 14 年度から財団法人千葉市教育振興財團埋蔵文化財調査センターが実施したものである。
- 3 発掘調査の期間・面積は、本文中の第 1 表に記したとおりである。
- 4 概報編集は、千葉市の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習振興課の指導のもと財団法人千葉市教育振興財團埋蔵文化財調査センターが実施したものである。
- 5 概報編集期間は、平成 20 年 6 月 12 日～平成 21 年 3 月 31 日である。
- 6 発掘調査は、平成 21 年 3 月末まで実施した。そのため、概報編集の時間の制約上、遺構配置図の一部が未掲載となってしまった。未掲載の遺構配置図に関しては、別の機会を設けたい。
- 7 本書の製作・編集は、青柳すみ江・佐藤真利子・菅野都・山形道子・吉田直美・和田史子の協力を得て、塙原勇人が担当して行った。
- 8 発掘調査では、作業員の方々の多大な協力を得た。特に名前を記さないが、感謝申し上げる。
- 9 遺構の写真撮影は発掘調査担当者が行い、遺物の写真撮影は塙原が行った。
- 10 航空写真は、東京航業株式会社が実施した。
- 11 出土資料及び調査記録等は、千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
- 12 発掘調査から概報刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。感謝申し上げる。
千葉県教育庁文化財課 千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課文化財係 千葉市土氣東土地区画整理組合

凡例

- 1 本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
- 2 本文中の挿図の縮尺は、各図中に縮尺を示してある。
- 3 各遺構配置図は、Adobe Systems 社製 Adobe Illustrator を用いて、コンピューター上で編集作業を行った。
- 4 遺構写真は発掘調査時のフィルムをスキャニングし、遺物写真是デジタルカメラで撮影した。編集作業は、Adobe Systems 社製 Adobe Photoshop を用いて、コンピューター上で行った。
- 5 土氣東遺跡群位置図は、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図より作成したものである。
- 6 土氣地区周辺地形図は、陸軍参謀本部作成の第 1 軍管地方二万分一迅速測図原図より作成したものである。
- 7 遺構番号は、発掘調査時の番号を踏襲した。

- 8 第2表で示した遺構数は、平成21年3月時点の集計数である。
- 9 出土資料は、平成21年3月現在で整理箱917箱（容量 150×440×600mm）を数える。
- 10 各挿図・写真・一覧表では、遺構の名称を以下の略称で表記している。
- 堅穴住居跡=住 挖立柱建物跡=掘 土壙=土 古墳=古 方形区画墓=方

目次

例言・凡例

目次

第1章 土気東遺跡群の概要	1
1 調査に至る経緯と発掘調査履歴	1
2 遺跡群の位置及び周辺遺跡	4
3 遺跡群の時代	4
第2章 各遺跡の概要	9
1 黒ハギ遺跡	9
2 奥房台遺跡	14
3 五十石西遺跡	14
4 五十石遺跡	16
5 北河原坂第1遺跡	18
6 長塚遺跡	20
7 上塚遺跡	22
8 文六西第1遺跡	24
9 文六西第2遺跡	24
10 文六東第1遺跡	24
11 文六東第2遺跡	24
12 宮台遺跡	24
第3章 各時代の概要	29
1 旧石器時代	28
2 繩文時代	30
① 集石跡・炉穴群	30
② 堅穴住居跡	32
③ 落とし穴	32
④ その他	33
3 古墳時代～平安時代	36
① 堅穴住居跡	36
② その他の出土遺物	42

③ 文字資料	46
④ 掘立柱建物跡	62
⑤ 井戸状遺構	62
⑥ 道・溝状遺構	63
⑦ 古墳	66
⑧ 方形区画墓	70
4 中・近世	73
第4章まとめ	75
抄録	

表目次

第1表 土気東遺跡群 発掘調査履歴一覧表	1
第2表 土気東遺跡群 検出遺構一覧表	7
第3表 土気東遺跡群 関係文献一覧表	8
第4表 土気東遺跡群 文字資料一覧表	54
第5表 土気地区 古墳一覧表	69
第6表 土気地区 方形区画墓一覧表	72

挿図・写真目次

年度別調査範囲図	3	長塚遺跡 航空写真	20
土気東遺跡群 位置図	5	長塚遺跡 遺構配置図	21
土気地区 周辺地形図	5	上塚遺跡 航空写真	22
遺構配置図	6	上塚遺跡 遺構配置図	23
黒ハギ遺跡 航空写真	9	文六西第1遺跡・文六東第1遺跡	
黒ハギ遺跡 遺構配置図1	10	トレンチ配置図	25
黒ハギ遺跡 遺構配置図2	11	文六西第2遺跡 遺構配置図	26
黒ハギ遺跡 遺構配置図3	12	文六東第2遺跡 遺構配置図	27
黒ハギ遺跡 遺構配置図4	13	宮台遺跡 遺構配置図	28
奥房台遺跡 航空写真	14	石器集中区 分布図	29
奥房台遺跡・五十石西遺跡 遺構配置図	15	集石跡・炉穴群 分布図	30
五十石遺跡 航空写真	16	炉穴群・出土縄文土器	31
五十石遺跡 遺構配置図	17	黒ハギ遺跡 縄文時代竪穴住居跡位置図	32
北河原坂第1遺跡 航空写真	18	縄文時代 落とし穴	33
北河原坂第1遺跡 遺構配置図	19	長塚遺跡 第126号土壤・出土遺物	34

黒ハギ遺跡 第 2004 号土壙・出土遺物	35
黒ハギ遺跡 第 2266 号堅穴住居跡	36
黒ハギ遺跡 第 2266 号堅穴住居跡 出土遺物 1	37
黒ハギ遺跡 第 2266 号堅穴住居跡 出土遺物 2	38
長塚遺跡 第 14・22・81 号堅穴住居跡	39
長塚遺跡 第 81・22 号堅穴住居跡 出土遺物	40
長塚遺跡 第 14 号堅穴住居跡 出土遺物	41
鉄器 鋸先	42
ハケ調整の土師器	43
度量衡に関わる遺物・畿内系土器	44
五十石遺跡 第 16 号堅穴住居跡	45
文字資料 墨書き土器「殿原」・「丈忠」	46
文字資料 墨書き土器「山万」	47
文字資料 墨書き土器「井上」・「井道」 ・「穴走」	48
文字資料 墨書き土器「穴走」・「田」・「生」	49
文字資料 墨書き土器その他 1	50
文字資料 墨書き土器その他 2	51
文字資料 墨書き土器その他 3	52
文字資料 刻書き土器	53
上塙遺跡 第 34・46 号掘立柱建物跡	62
井戸状遺構	63
道・溝状遺構	64
土気東遺跡群 道・溝状遺構位置図	65
北河原坂第 1 遺跡 第 2 号古墳	66
長塚遺跡 第 5 号古墳	67
土気地区 古墳・方形区画墓分布図	68
五十石遺跡 第 1 号方形区画墓	70
五十石遺跡 第 1 号方形区画墓 出土遺物	71
黒ハギ遺跡 中・近世遺構群	73
黒ハギ遺跡 中・近世各種遺構	74
土気東遺跡群 遺跡群構成模式図	76



土気東遺跡群 航空写真（平成 7 年撮影 南東から）

第1章 土気東遺跡群の概要

1 調査に至る経緯と調査履歴

土気東遺跡群は、千葉市土気東土地区画整理事業地内に所在する遺跡の総称であり、事業地内には計12ヶ所の遺跡が所在する。埋蔵文化財の確認調査及び本調査は、平成2年度に本寿寺内の墓地建設に伴う事前調査を始めとして、平成21年3月まで実施した。調査は、平成13年度までは財団法人千葉市文化財調査協会、平成14年度以降は財団法人千葉市教育振興財團埋蔵文化財調査センターが実施した。発掘調査の履歴は第1表のとおりである。

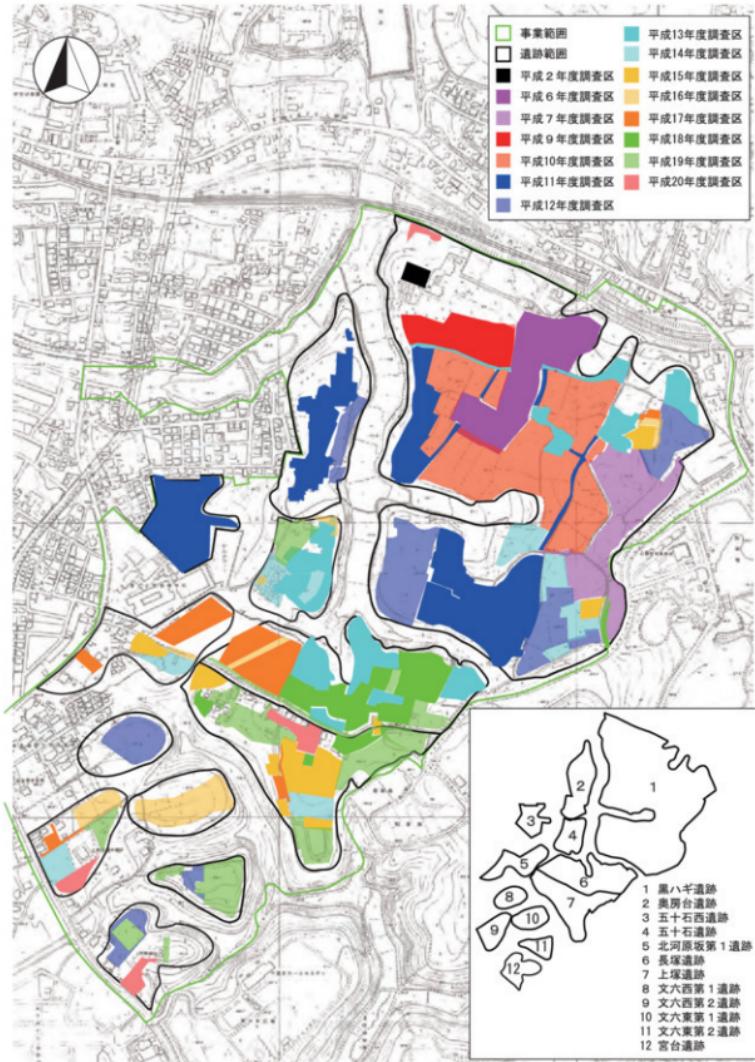
第1表-1 土気東遺跡群 調査履歴一覧表

事前協議				
平成4年5月20日	土気東土地区画整理組合設立準備委員会結成			
平成4年10月7日	同組合設立準備委員会から埋蔵文化財所在の有無の照会 面積 691,857 m ² (公簿)			
平成5年10月8日	(第一次回答) 213,000 m ² 講文、古墳～平安時代散布地及び古墳群1ヶ所			
平成6年10月13日	(第二次回答) 245,500 m ² 講文、古墳～平安時代散布地及び古墳群10ヶ所			

発掘調査				
調査年度	遺跡名	事業区分	調査種別	調査面積
平成2年度	黒ハギ遺跡	千葉県補助金事業	本調査	700 m ²
平成6年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	確認調査	3,210/51,800 m ²
平成7年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	確認調査	6,520/86,200 m ²
平成8年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	確認調査	548/7,947 m ²
	奥房台遺跡	組合単費事業	確認調査	552/5,550 m ²
	北河原坂第1遺跡	組合単費事業	確認調査	108/2,370 m ²
平成9年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	31,871 m ²
平成10年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	51,407 m ²
	黒ハギ遺跡	組合単費事業	確認調査	29,900 m ²
平成11年度	黒ハギ遺跡	国土交通省補助金事業	本調査	2,500 m ²
	組合単費事業	本調査		27,463 m ²
	奥房台遺跡	組合単費事業	本調査	9,910 m ²
平成12年度	五十石西遺跡	組合単費事業	本調査	1,405 m ²
	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	8,000 m ²
	黒ハギ遺跡	国土交通省補助金事業	本調査	25,890 m ²
			確認調査	150/7,570 m ²
	奥房台遺跡	組合単費事業	確認調査	1,495/5,800 m ²
			確認・本調査	600 m ²
	五十石遺跡	国土交通省補助金事業	本調査	3,450 m ²
平成13年度	文六東第2遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	380/3,800 m ²
	宮台遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	797/7,600 m ²
	文六西第1遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	7,315/3,100 m ²
	長塚遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	590/5,700 m ²
	上塚遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	1,360/18,200 m ²
			確認調査	395/6,200 m ²
	黒ハギ遺跡	組合単費事業	確認調査	70/700 m ²
			本調査	2,820 m ²
				1,296 m ²
				700 m ²

第1表－2 土気東遺跡群 調査履歴一覧表

調査年度	遺跡名	事業区分	調査種別	調査面積
平成13年度	黒ハギ遺跡	国土交通省補助金事業	本調査	3,070 m ²
		組合単費事業	本調査	1,084 m ²
	長塚遺跡	国土交通省補助金事業	本調査	1,000 m ²
		国土交通省補助金事業	確認調査	7,820 m ²
	五十石遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	5,340 m ²
		国土交通省補助金事業	本調査	1,240/12,400 m ²
		国土交通省補助金事業	本調査	496/12,400 m ²
		国土交通省補助金事業	本調査	9,736 m ²
				503 m ²
平成14年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	970 m ²
		国土交通省補助金事業	本調査	5,670 m ²
	土塚遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	985/10,500 m ²
		国土交通省補助金事業	本調査	392/10,500 m ²
	五十石遺跡	組合単費事業	本調査	3,000 m ²
		国土交通省補助金事業	確認調査	360/3,600 m ²
		国土交通省補助金事業	確認調査	185/3,600 m ²
		国土交通省補助金事業	本調査	2,160 m ²
	文六西第2遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	50 m ²
	北河原坂第1遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	250/2,500 m ²
	北河原坂第1遺跡	国土交通省補助金事業	確認調査	220/2,200 m ²
平成15年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	912 m ²
		国土交通省補助金事業	本調査	1,000 m ²
	長塚遺跡	組合単費事業	本調査	600 m ²
		組合単費事業	本調査	400 m ²
	土塚遺跡	国土交通省補助金事業	本調査	10,300 m ²
平成16年度	北河原坂第1遺跡	国土交通省補助金事業	本調査	1,556, 85 m ²
	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	1,000 m ²
		組合単費事業	確認調査	40 m ²
	文六東第1遺跡	組合単費事業	確認調査	1,000/10,000 m ²
	文六西第2遺跡	組合単費事業	確認調査	280/2,800 m ²
	五十石遺跡	組合単費事業	確認調査	130/1,300 m ²
		組合単費事業	確認調査	150/1,470 m ²
	長塚遺跡	組合単費事業	本調査	860 m ²
		組合単費事業	確認調査	1,100/10,260 m ²
平成17年度	北河原坂第1遺跡	組合単費事業	確認調査	574/5,620 m ²
	土塚遺跡	組合単費事業	本調査	1,600 m ²
		組合単費事業	確認・本調査	500 m ²
	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	17,790 m ²
		組合単費事業	本調査	3,610 m ²
	長塚遺跡	組合単費事業	確認調査	70/630 m ²
	北河原坂第1遺跡	組合単費事業	確認調査	120/1,200 m ²
	文六西第2遺跡	組合単費事業	確認調査	
平成18年度	長塚遺跡	組合単費事業	本調査	2,570 m ²
		組合単費事業	本調査	1,800 m ²
	土塚遺跡	組合単費事業	本調査	9,330 m ²
		組合単費事業	本調査	6,900 m ²
	五十石遺跡	組合単費事業	本調査	2,390 m ²
		組合単費事業	本調査	4,621, 18 m ²
	文六東第2遺跡	組合単費事業	本調査	5,950 m ²
	文六西第2遺跡	組合単費事業	本調査	450 m ²
	宮台遺跡	組合単費事業	本調査	730 m ²
平成19年度	黒ハギ遺跡	組合単費事業	本調査	1,350 m ²
	土塚遺跡	組合単費事業	本調査	730 m ²
		組合単費事業	本調査	2,000 m ²
	文六西第2遺跡	開発事業前事業	確認調査	180/1,730 m ²
	宮台遺跡	開発事業前事業	確認・本調査	350/3,500 m ²
平成20年度	上塚遺跡	組合単費事業	本調査	
		組合単費事業	本調査	
	文六西第2遺跡	開発事業前事業	確認調査	
	宮台遺跡	開発事業前事業	確認・本調査	



年度別調査範囲図

2 遺跡群の位置及び周辺遺跡

土気地区は、千葉市域に広がる下総台地では最も高い標高を測る地域で、関東造盆地の外縁部にあたり、地形的には下総台地と上総丘陵の転換地帯である。この地形的特徴から、土気町の地名は峠の転訛説がある^(註1)。また、この地区には上総と下総の水系の分水界が集中している。土気地区と大網白里町との境は、本納一東金崖線と呼ばれる急崖を形成し、崖下の灌漑用の小中池から発する水は、南白亜川^(カナガワ)に合流し太平洋に至っている。遺跡群南側直下の谷は、村田川の最上流域に属し、小山町から市原地域を経て東京湾に注いでいる。さらに、遺跡群内の湧水のある谷津は、黒ハギ遺跡と五十石・奥房台遺跡の間を抜け鹿島川として印旛沼へと流れている。

このような地理的特性を持つ土気地区は、歴史的には上総国と下総国の境界にあり、千葉市合併以前は山武郡に属しており、古代においては上総国山辺郡に含まれていた^(註2)。

そして、この土気地区は、千葉県内でも遺跡の調査が広範囲に実施された地域でもある。

昭和の森遺跡群『昭和の森』内には計12ヶ所の遺跡が所在する。発掘調査は、昭和51年度から平成18年度まで公園整備事業が行われることに実施されてきた^(註3)。

土気南遺跡群 JR外房線上駅南側に広がる現あすみが丘の街には、かつて計32ヶ所の遺跡が存在し、昭和54年度から平成元年度までの約11年におよぶ発掘調査が実施された^(註4)。

舟塚古墳 現千葉県立土気高校敷地内には、土気地区唯一の前方後円墳である舟塚古墳が存在していた。昭和39年に調査が行われ、二重周溝と砂岩切石積みの横穴式石室が検出されている^(註5)。

上記の他にも中央ゴルフ場遺跡群^(註6)や土気緑の森工業団地内遺跡群^(註7)など調査事例が多いため割愛するが、土気地区で調査された遺跡の時代は、後期旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良～平安時代・中世・近世と多岐に渡る。なお、土気東遺跡群に関係する文献は、第3表のとおりである。

3 遺跡群の時代

発掘調査の結果、検出された時代は、後期旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良～平安時代・中世・近世と多岐に渡るが、中心となる時期は古墳時代から平安時代にかけての時期である。当該時期の堅穴住居跡は総数1,218軒を数え、特に945軒の堅穴住居跡を検出した黒ハギ遺跡は、土気地区の拠点的集落跡であることが判明した。その他、鹿島川と村田川の分水嶺上から計22基の古墳と計30基の方形区画墓が検出された。土気東遺跡群内で検出された遺構の時代・種別・総数は第2表のとおりである。

註1 第3表20

註2 土気地区的郷名は、従来、上総国山辺郡高文郷に比定されていたが、近年では市原郡山田郷^(カタヤマ)や山辺郡草野郷^(スズノヤマ)に比定する説も見解も出されている。

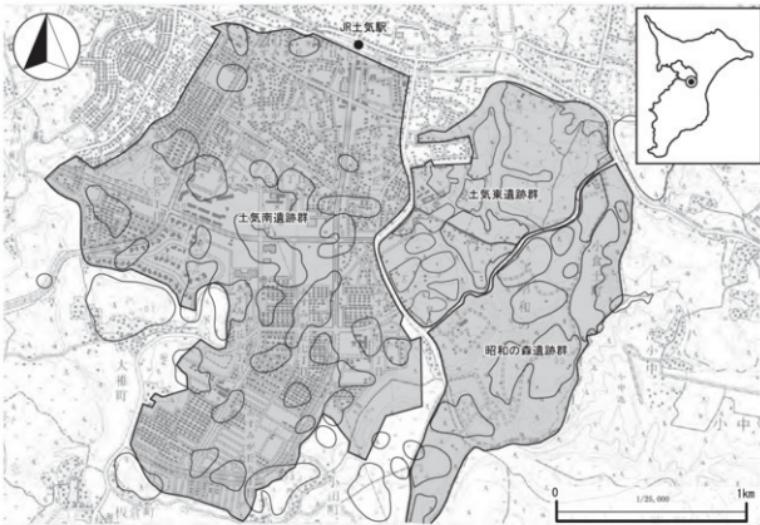
註3 第3表16～21

註4 第3表22～29

註5 第3表32

註6 第3表30

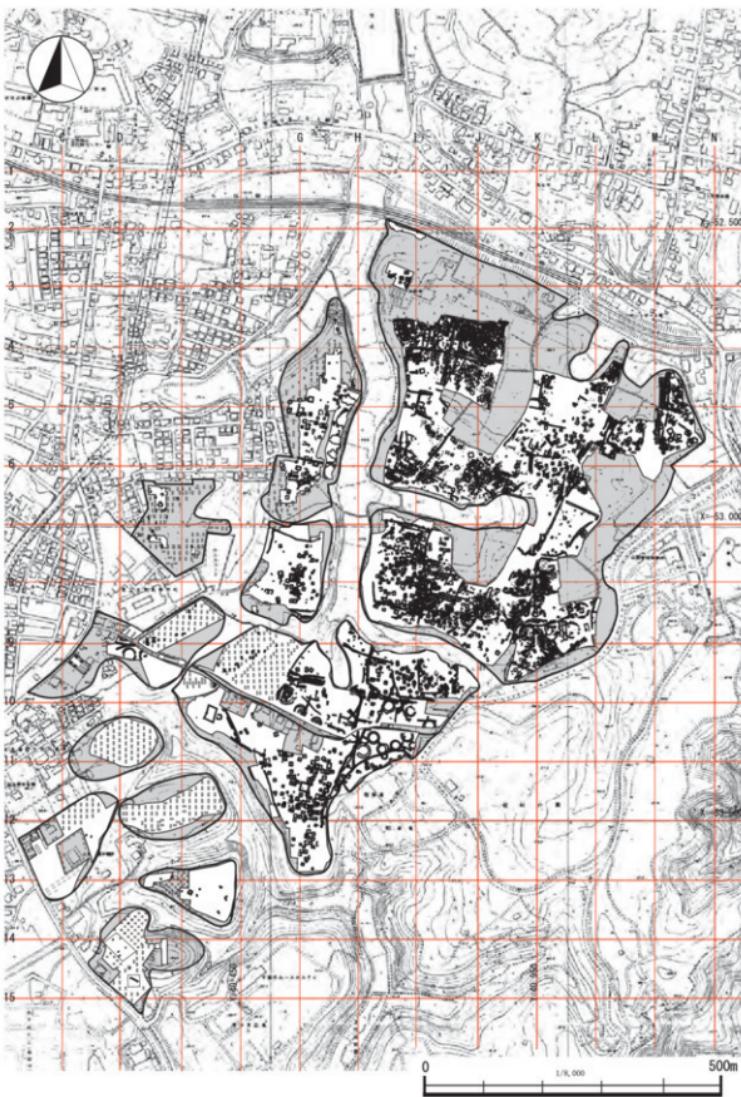
註7 第3表31



土氣東遺跡群 位置図



土氣地区 周辺地形図

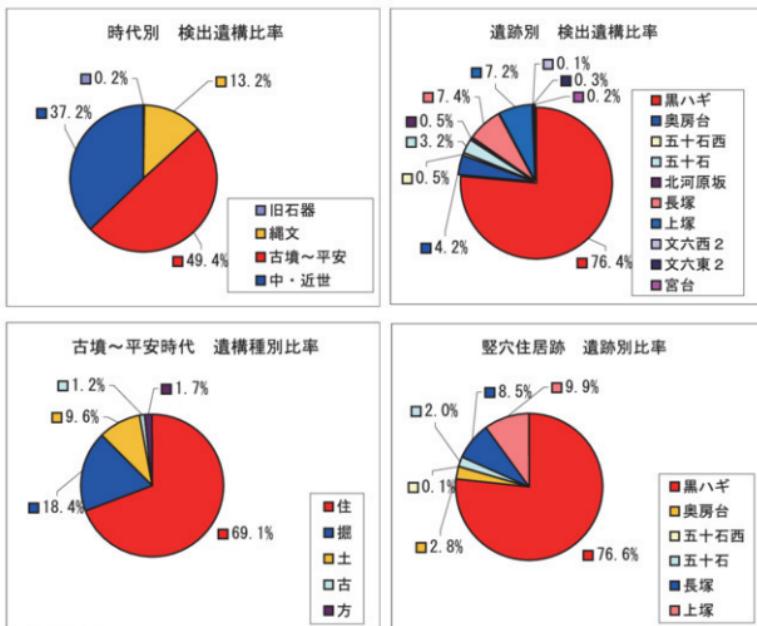


造構配置図

第2表 土気東遺跡群 検出遺構一覧表

旧石器 時代	縄文時代					古墳～平安時代					中・近世						
	集	住	炉	土	集石	住	掘	土	古	方	掘	溝	土	塚	台	地	火
1 黒八ギ遺跡		5	51	206		945	231	138	5		55	269	799	1	10	14	32
2 奥房台遺跡		2	13	44		35	18	28		9		4					
3 五十石西遺跡			6		1		2		1		4	3					
4 五十石遺跡	2		13	5		25	17	3	1	11		9	28				
5 北河原坂第1遺跡	1			2					2	1		12	1				
6 長塚遺跡	1		26	39		105	11	1	7			78	1				
7 上塚遺跡	3			47	1	122	51		7	6		23					
8 文六西第1遺跡																	
9 文六西第2遺跡					2												
10 文六東第1遺跡																	
11 文六東第2遺跡					8					2							
12 宮台遺跡	1											1					
総数	8	7	103	366	1	1,233	328	172	22	30	55	400	832	1	10	14	32

平成20年3月現在



遺構略称凡例
 集：石器集中区 集石：集石跡 古：古墳 塚：塚 火：火葬跡
 土：土壤 住：竪穴住居跡 方：方形土面墓 台：台地整形区画
 炉：伊穴群 掘：掘立柱建物跡 溝：溝状遺構 地：地下式坑

第3表 土気東遺跡群 関係文献一覧表

番号	編・著者名	書名	発行年
1	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市土気東遺跡群Ⅰ』	平成11年
2	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報4』	平成4年
3	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報8』	平成8年
4	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報9』	平成9年
5	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報10』	平成10年
6	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報11』	平成11年
7	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報12』	平成12年
8	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報13』	平成13年
9	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市文化財調査協会年報14』	平成14年
10	財団法人千葉市教育振興財団	『埋蔵文化財調査センター年報15』	平成15年
11	財団法人千葉市教育振興財団	『埋蔵文化財調査センター年報16』	平成16年
12	財団法人千葉市教育振興財団	『埋蔵文化財調査センター年報17』	平成17年
13	財団法人千葉市教育振興財団	『埋蔵文化財調査センター年報18』	平成18年
14	財団法人千葉市教育振興財団	『埋蔵文化財調査センター年報19』	平成19年
15	財団法人千葉市教育振興財団	『埋蔵文化財調査センター年報20』	平成20年
16	千葉市教育委員会	『千葉市文化財調査報告書 第6集』	昭和58年
17	財団法人千葉県文化財センター	『千葉市小食土庵寺確認調査報告書』	昭和61年
18	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市民ヶ台・住吉・東住吉遺跡』	平成元年
19	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉市桔木台遺跡』	平成4年
20	財団法人千葉市教育振興財団	『千葉市昭和の森遺跡群Ⅰ』	平成16年
21	財団法人千葉市教育振興財団	『千葉市昭和の森遺跡群Ⅱ』	平成21年
22	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅰ』	平成4年
23	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅱ』	平成4年
24	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅲ』	平成5年
25	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅳ』	平成5年
26	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅴ』	平成8年
27	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅵ』	平成8年
28	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅶ』	平成8年
29	財団法人千葉市文化財調査協会	『土気南遺跡群Ⅷ』	平成8年
30	財団法人千葉市文化財調査協会	『千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書』	平成4年
31	財団法人千葉県文化財センター	『土気緑の森工業団地内遺跡群』	平成6年
32	沼澤 豊	「218 舟塙古墳」財団法人千葉県史料研究財団『千葉県の歴史 資料編 考古2』	平成15年
33	倉田義広	「50 土気南遺跡群」財団法人千葉県史料研究財団『千葉県の歴史 資料編 考古3』	平成10年
34	永沼律朗	「50 小食土庵寺」財団法人千葉県史料研究財団『千葉県の歴史 資料編 考古3』	平成10年
35	横田正美	「61 鹿子遺跡群」財団法人千葉県史料研究財団『千葉県の歴史 資料編 考古3』	平成10年

第2章 各遺跡の概要

1 黒ハギ遺跡

所 在 地 緑区土気町270他

調査面積 168,463m²

調査期間 平成2年度（墓地造成に伴う本調査）

平成6～8年度（確認調査）、平成9～20年度（本調査）

調査概要 黒ハギ遺跡は、遺跡群の北東側に位置し、鹿島川源流域の東岸の標高85mから95mを測る台地上に立地する。遺跡が立地する台地は中央付近に小支谷が入り込んでおり、これが遺跡を南北に分けている。周辺には、東側に昭和の森遺跡群が、西側に奥房台遺跡・五十石遺跡が、南側に長塚遺跡が所在する。

検出された遺構は、縄文時代竪穴住居跡5軒・炉穴群51基・土壙206基・古墳～平安時代竪穴住居跡945軒・掘立柱建物跡231棟・土壙138基・古墳5基・中・近世掘立柱建物跡55棟・溝状遺構269条・土壙799基・塚1基・台地整形区画10ヶ所・地下式坑10基・火葬跡32基である。

調査の結果、黒ハギ遺跡は、土氣東遺跡群および土氣地区の拠点的集落跡であることが判明した。



黒ハギ遺跡 航空写真（平成9年撮影 西から）



黒ハギ遺跡 遺構配置図 1



黒八ギ遺跡 遺構配置図2



黒ハギ遺跡 遺構配置図 3



黒ハギ遺跡 遺構配置図 4

2 奥房台遺跡

所 在 地 緑区土気町1817-5他

調査面積 10,510m²

調査期間 平成10・12年度（確認調査）、平成11・12年度（本調査）

調査概要 奥房台遺跡は、遺跡群の北西側に位置し、鹿島川源流域の標高92mを測る台地上に立地する。周辺には、東側に黒ハギ遺跡が、南側に五十石遺跡が所在する。検出された遺構は、縄文時代堅穴住居跡2軒・炉穴群13基・土壙44基・古墳～平安時代堅穴住居跡35軒・掘立柱建物跡18棟・土壙28基・方形区画墓9基・中・近世溝状遺構4条である。

3 五十石西遺跡

所 在 地 緑区土気町1818-1他

調査面積 1,450m²

調査期間 平成10年度（確認調査）、平成11年度（本調査）

調査概要 五十石西遺跡は、遺跡群の西側に位置し、鹿島川源流域標高91mを測る台地縁辺部に立地する。周辺には、東側に五十石遺跡が、南側に北河原坂第1遺跡が所在する。検出された遺構は、縄文時代土壙6基・古墳～平安時代堅穴住居跡1軒・土壙2基・方形区画墓1基・中・近世溝状遺構4条・土壙3基である。

奥房台遺跡・五十石西遺跡は、報告書（第3表1）が刊行されているので、そちらを参照されたい。



奥房台遺跡 航空写真（平成11年撮影 西から）



奥房台遺跡（左）・五十石西遺跡（右） 遺構配置図

4 五十石遺跡

所 在 地 緑区土気町1824他

調査面積 18,570m²

調査期間 平成12年度（確認調査）、平成13～14・19年度（本調査）

調査概要 五十石遺跡は、遺跡群の西側に位置し、鹿島川源流域の東岸の標高93mを測る台地上に立地する。北側は奥房台遺跡と隣接する。

検出された遺構は、旧石器時代石器集中区2ヶ所、縄文時代炉穴群13基・土壙5基、古墳～平安時代堅穴住居跡25軒・掘立柱建物跡17棟・土壙3基・古墳1基・方形区画墓11基、中・近世溝状遺構9条・土壙28基である。

五十石遺跡で注目されるのは、第16号堅穴住居跡と第1号方形区画墓である。

第16号堅穴住居跡からは、畿内系土器と共に把手付中空円面硯が完形で出土した。円面硯は把手が付き、把手から硯面の下が中空になっている。時期は8世紀前半頃と考えられる。

第1号方形区画墓からは、南に開口する横穴式石室状の掘りこみを持つ主体部が検出され、主体部からは焼骨を納めた土師器蔵骨器と共に特殊足金具付短刀と鉄鎌が副葬品として納められていた。時期は8世紀中頃と考えられる。



五十石遺跡 航空写真（平成14年撮影 西から）



五十石遺跡 遺構配置図

5 北河原坂第1遺跡

所 在 地 緑区小食土町742-16他

調査面積 1,627m²

調査期間 平成14年度（確認調査）、平成15～18年度（確認・本調査）

調査概要 北河原坂第1遺跡は遺跡群の西側に位置し、村田川源流域の標高96～97mを測る台地上に立地する。周辺には、北側に五十石奥房台遺跡が、東側に長塚遺跡が所在する。

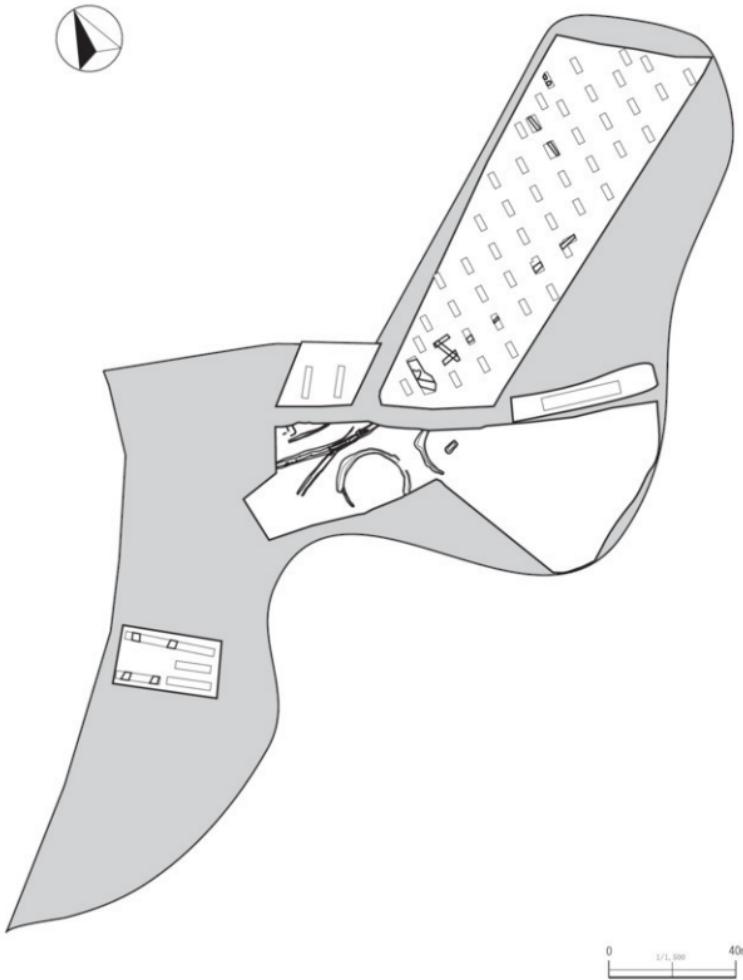
検出された遺構は、旧石器時代石器集中区1ヶ所、縄文時代土壙2基、古墳2基・方形区画墓1基、中・近世溝状遺構12条・土壙1基である。

第2号古墳から、墳丘ほぼ中央部に旧表土面を掘り込み面とした木棺直葬の主体部が1基検出された。主体部の規模は、0.5m×2.5mで周囲に少量の白色粘土が認められ、主体部内から頭部を東に向いた人骨と直刀1振りが出土した。また、旧表土面まで下がった段階で、祭祀に用いられたと考えられる土器壺が、古墳の中心付近から出土した。

地元民の話によれば、舟塚古墳の推定地（現千葉県立土気高校敷地内）周辺には、数基の小円墳があつたと言われている。これらの小円墳は、土気高校の敷地やグラウンド造成に伴い埋滅してしまったが、北河原坂第1遺跡の古墳だけが唯一破壊を免れた古墳と言えよう。



北河原坂第1遺跡 航空写真（平成16年撮影 北西から）



北河原坂第1遺跡 遺構配置図

6 長塚遺跡

所 在 地 緑区土気町1839他

調査面積 36,920m²

調査期間 平成12年度（確認調査）、平成13・15～19年度（本調査）

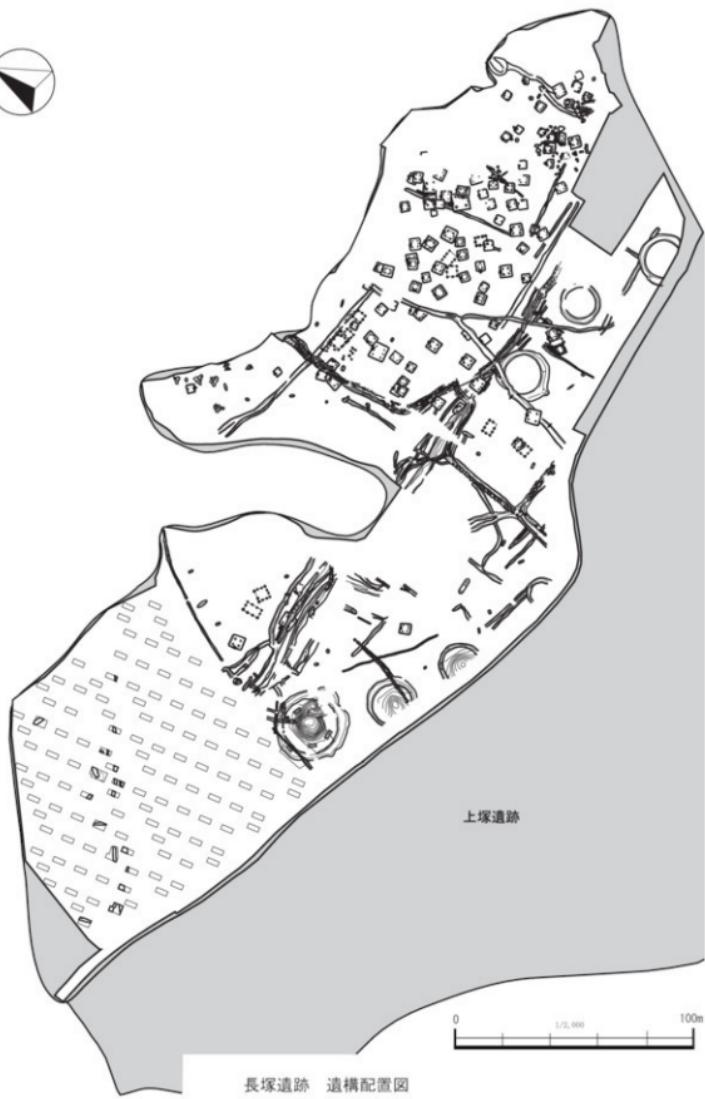
調査概要 長塚遺跡は、遺跡群の南東側に位置し、鹿島川源流域の標高90～94mを測る台地上に立地する。周辺には、北側に谷津を挟んで黒ハギ遺跡が所在し、南側に道路を挟んで上塚遺跡が、東側に昭和の森遺跡群が隣接する。

検出された遺構は、旧石器時代石器集中区1ヶ所、縄文時代炉穴群26基・土壙39基、古墳～平安時代堅穴住居跡105軒・掘立柱建物跡11棟・土壙1基・古墳7基、中・近世溝状遺構78条・土壙1基である。

調査の結果、長塚遺跡の南側、鹿島川と村田川の分水嶺上には古墳群が形成され、古墳時代以降の集落跡は、古墳群の北東側に展開していることが明らかとなった。また、遺跡内からは、東西を横断する道・溝状が数多く検出された。これらは、大網から菅田方面を結ぶ通称「土気往還」の旧道として長期間にわたって使用されていたと考えられる。



長塚遺跡 航空写真（平成13年撮影 東から）



長塚遺跡 遺構配置図

7 上塚遺跡

所 在 地 緑区小食土町734-5他

調査面積 39,530m²

調査期間 平成12年度（確認調査）、平成14～20年度（本調査）

調査概要 上塚遺跡は、遺跡群の南側に位置し、村田川源流域の標高91～93mを測る台地上に立地する。周辺には、北側に道路を挟んで長塚遺跡が、東側に昭和の森遺跡群が隣接する。

検出された遺構は、旧石器時代石器集中区3ヶ所、縄文時代集石跡1ヶ所・土壙47基、古墳～平安時代竪穴住居跡122軒・掘立柱建物跡51棟・古墳7基・方形区画墓6基、中・近世溝状遺構23条である。

上塚遺跡からも古墳が検出された。立地上から長塚遺跡と上塚遺跡の古墳は同一の古墳群として捉えられ、鹿島川と村田川の分水嶺上には古墳群が形成されていることが明らかとなった。

集落跡が古墳群の南側から検出されたことにより、土気東遺跡群内の村田川源流域の集落跡は、古墳群を中心に北側の長塚遺跡と南側の上塚遺跡に分かれて展開することが判明した。

また検出された方形区画墓は、奥房台遺跡や五十石遺跡とともに舟塚古墳をはじめとする古墳群を取り囲むように分布することが明らかとなった。



上塚遺跡 航空写真（平成15年撮影 南から）



上塚遺跡 遺構配置図

8 文六西第1遺跡

所 在 地 緑区小食土町1170-16他

調査面積 590m²

調査期間 平成12年度（確認調査）

調査概要 文六西第1遺跡は、遺跡群の西側に位置し、村田川源流域の標高93mを測る台地上に立地する。周辺には、南側に文六東第1遺跡が所在する。

調査の結果、縄文時代早期の土器片4点が出土したのみに止まり、遺構は確認されなかった。

9 文六西第2遺跡

所 在 地 緑区小食土町1169-15他

調査面積 750m²

調査期間 平成14・16・17・20年度（確認調査）平成19年度（本調査）

調査概要 文六西第2遺跡は、遺跡群の西側に位置し、村田川源流域の標高93mを測る台地上に立地する。周辺には、東側に文六東第1遺跡が所在する。

調査の結果、縄文時代土壙（落とし穴）2基が検出された。

10 文六東第1遺跡

所 在 地 緑区小食土町1170-21他

調査面積 1,000m²

調査期間 平成16年度（確認調査）

調査概要 文六東第1遺跡は、遺跡群の西側に位置し、村田川源流域の標高93mを測る台地上に立地する。周辺には、西側に文六西第2遺跡が隣接する。

調査の結果、遺構は確認されなかった。

11 文六東第2遺跡

所 在 地 緑区小食土町1169-8他

調査面積 5,950m²

調査期間 平成12年度（確認調査）平成19年度（本調査）

調査概要 文六東第2遺跡は、遺跡群の西側に位置し、村田川源流域の標高92mを測る台地上に立地する。周辺には、南側に宮台遺跡が所在する。

調査の結果、縄文時代土壙（落とし穴）8基、奈良時代方形区画墓2基が検出された。

12 宮台遺跡

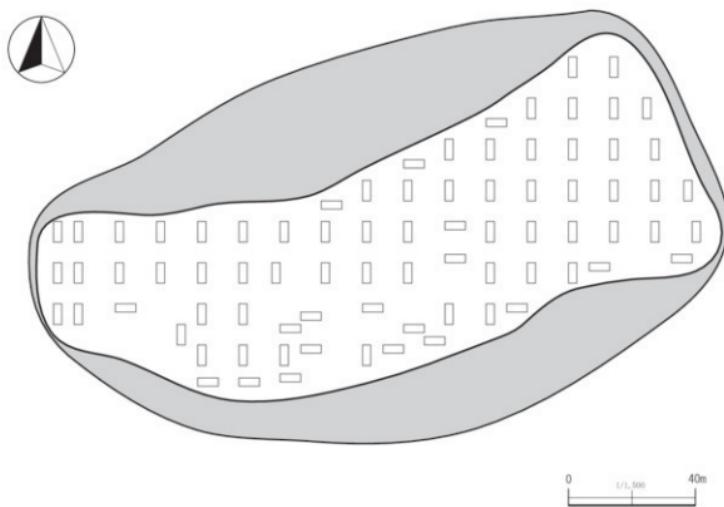
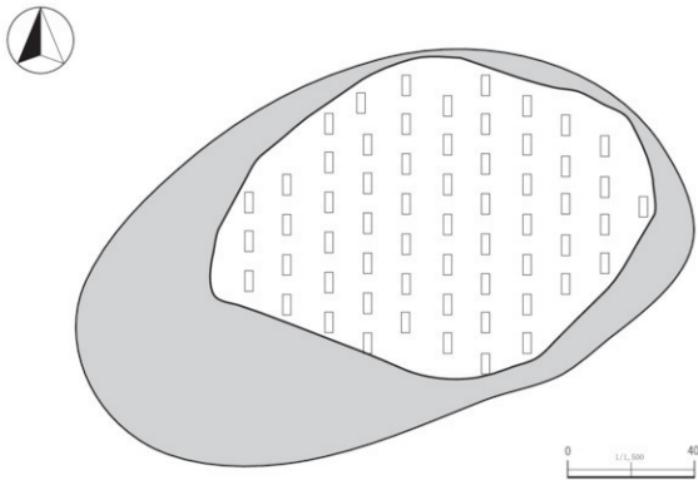
所 在 地 緑区小食土町967他

調査面積 2,430m²

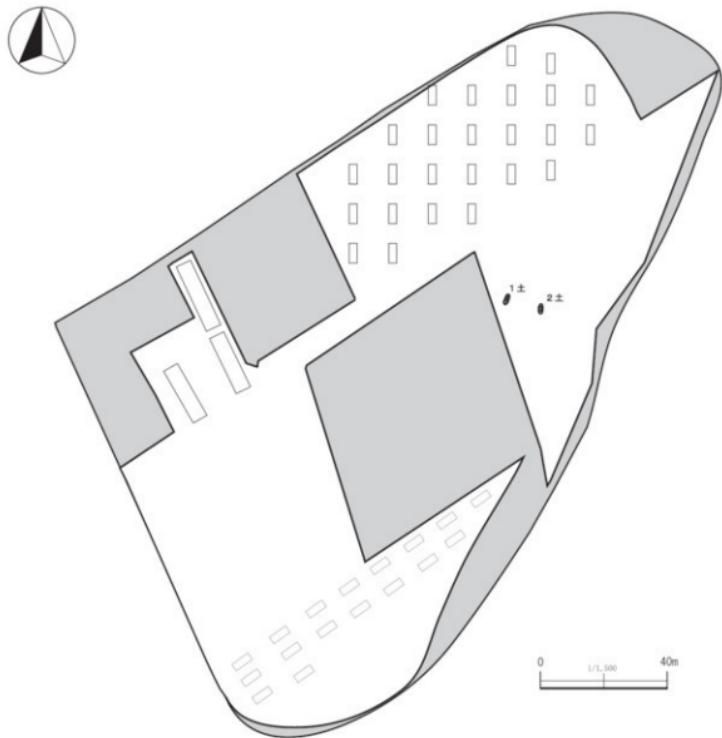
調査期間 平成12年度（確認調査）平成19・20年度（本調査）

調査概要 宮台遺跡は、遺跡群の南側に位置し、村田川源流域の標高92mを測る台地上に立地する。周辺には、北側に文六東第2遺跡が所在する。

調査の結果、旧石器時代石器集中区1ヶ所、縄文時代土壙（落とし穴）7基、中・近世溝状遺構1条が検出された。



文六西第1遺跡（上）・文六東第1遺跡（下）トレンチ配置図

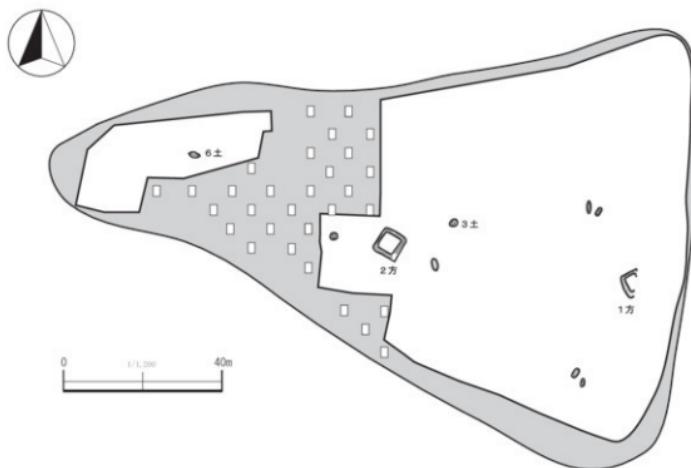


第1号土壤



第2号土壤

文六西第2遗迹 遗构配置图



第6号土塘



第3号土塘

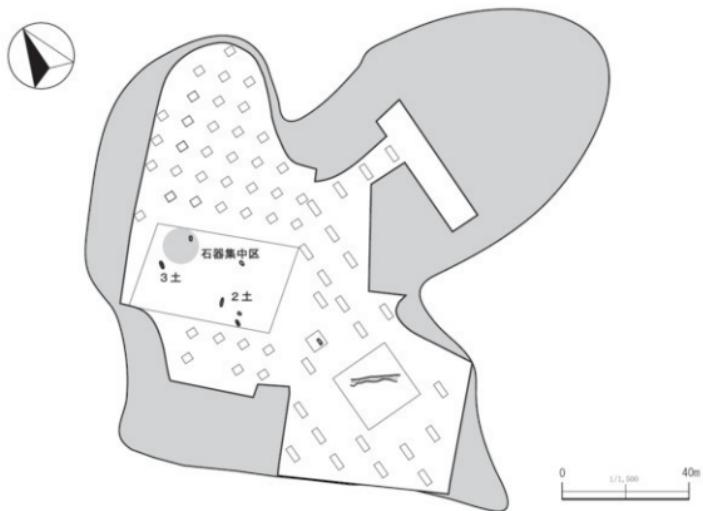


第1号方形区墓



第2号方形区墓

文六束第2遺跡 遺構配置図



石器集中区



第2号土壤



第3号土壤



第1号溝状遗構
宫台遗迹 遗構配置图

第3章 各時代の概要

1 旧石器時代

石器集中区は、五十石遺跡・北河原坂第1遺跡・長塚遺跡・上塚遺跡・宮台遺跡から、いずれも谷津を望む台地緩斜面地上のソフトローム層中から検出された。

石器集中区は、上塚遺跡から最も多く検出された。出土した石器は焼けた礫と剥片が主体を占め、剥片は真岩と黒曜石が主体をなす。ツールは少ない傾向にある。



2 縄文時代

① 集石跡・炉穴群

集石跡は、上塚遺跡の村田川源流域の谷津を望む遺跡南端部分から検出された。ほぼ全ての礫が火を受けたためか、ひびが入っている。出土した礫は縄文時代早期後半条痕文系の土器が供伴していることから、集石跡はこの時期に属するものと考えられる。

炉穴群は、黒ハギ遺跡・奥房台遺跡・五十石遺跡・長塚遺跡の鹿島川源流域の谷津を望む台地斜面地上に集中して検出された。

炉穴群の発掘調査時、特に真冬の間は、谷底から強烈な風が台地に吹き上がっていた。おそらく当時も同じような状況であったと思われ、縄文時代人の土地の利用状況が窺える。

炉穴は単独からなるものは少なく、その大半は群を構成していた。炉穴の多くは、天井部が崩落した状況で検出されたが、黒ハギ遺跡のように稀に天井部が残存した状況で検出される例もある。

炉穴群の火床面からは、縄文時代早期後半条痕文系の土器が数多く出土していることから、炉穴群はこの時期に属すると考えられる。



集石跡・炉穴群 分布図



黒ハギ遺跡



黒ハギ遺跡



五十石遺跡



長塚遺跡



黒ハギ遺跡

炉穴群・出土縄文土器

② 壱穴住居跡

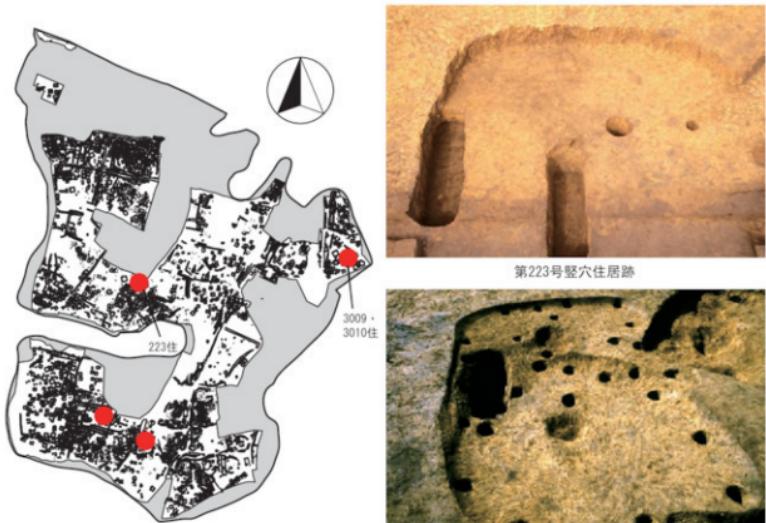
縄文時代、特に中期の壹穴住居跡は、遺跡群で検出された遺構の中でも最も割合が少なく、黒ハギ遺跡では計5軒が検出されるに止まった。土気地区では土氣南遺跡群をはじめ広い範囲に及ぶ発掘調査が実施されているが、縄文時代中期の調査事例は少なく、文六第1遺跡・中鹿子第2遺跡でそれぞれ1,2軒の壹穴住居跡が検出されている程度である。

黒ハギ遺跡第223号壹穴住居跡は、縄文時代中期前半（阿玉台式期）に属し、同第3009・3010号壹穴住居跡は縄文時代中期後半（加曾利E式期）に属すと考えられる。

③ 落とし穴

落とし穴は、遺跡群全体から見られたが、台地縁辺部で多く検出される傾向にある。その平面形態から、長橢円形を呈し両端の壁がオーバーハングするもの（文六東第2遺跡第6号土壤）、楕円形を呈し底面にピットを有するもの（長塚遺跡第116号土壤、文六西第2遺跡第1号土壤・第2号土壤）、円形を呈し深さがあるもの（文六東第2遺跡第3号土壤・第7号土壤）の3種類に分けられる。その中で楕円形を呈し底面にピットを有する落とし穴が最も多く検出された。

落とし穴から遺物が出土した例は少なかったが、長塚遺跡第126号土壤からは縄文土器深鉢が出土した。深鉢は、遺構確認面から約50cm下から底部を欠いた状態で出土した。時期は縄文時代中期後半（加曾利E式期）と考えられる。



黒ハギ遺跡 縄文時代壹穴住居跡位置図

④ その他

黒ハギ遺跡南端の台地斜面地上から検出された第2004号土壙からは、縄文時代土器浅鉢2点が出土した。浅鉢は、大型のものが小型のものに被さるような状態で出土している。時期は縄文時代中期前半（阿玉台式期）である。



文六東第2遺跡 第6号土壙

長塚遺跡 第116号土壙



文六西第2遺跡 第1号土壙

文六西第2遺跡 第2号土壙



文六東第2遺跡 第3号土壙

文六東第2遺跡 第7号土壙

縄文時代 落し穴



長塚遺跡 第126号土壤・出土遺物



出土状況 1



出土状況 2



出土縄文土器 1



出土縄文土器 2



黒ハギ遺跡 第2004号土壤・出土遺物

3 古墳～平安時代

当該時期が、土気東遺跡群の主体をなしており、検出された遺構は、堅穴住居跡1,233軒・掘立柱建物跡328棟・土壇172基・古墳22基・方形区画墓30基を数える。

① 堅穴住居跡

土気東遺跡群の集落跡は、古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれている。堅穴住居跡が最も多く検出されたのは黒ハギ遺跡で、その軒数は945軒を数える。遺跡群全体から見ると、その割合は77.6%を占める（第2表）。黒ハギ遺跡の堅穴住居跡は、立地状況から見ると、遺跡中央部に入り込む谷津を境に北側と南側に分かれて集中的に分布している。

黒ハギ遺跡第2266号堅穴住居跡からは、大量の遺物が出土し、その点数は800点以上を数える。その出土状況から、大半は住居廃絶後の投棄によるものと考えられ、出土した遺物は須恵器坏・土師器坏・甕・瓶などである。時期は7世紀後半頃である。

カマド内の火床面から、1の須恵器坏が火を全く受けていない状態で出土した。住居廃絶時に何らかのカマド祭祀行為が行われていたと考えられる。

出土遺物の中に、11の紡錘車が出土した。11には漆が塗られ、線刻が施されている。同様の紡錘車は、他県では古墳から出土している（註1）。

註1 京都府亀岡市、羊ヶ谷古墳（古墳時代中期5世紀）、三重県上野市、高猿古墳（古墳時代後期6世紀）から出土している。『考古資料大綱 第9巻』 平成14年 小学館



第2266号堅穴住居跡



遺物出土状況 1

黒ハギ遺跡 第2266号堅穴住居跡



遺物出土状況 2



遺物出土状況 3



カマド内遺物出土状況 1



カマド内遺物出土状況 2



第 2266 号竪穴住居跡出土遺物 1



7



8



9



10



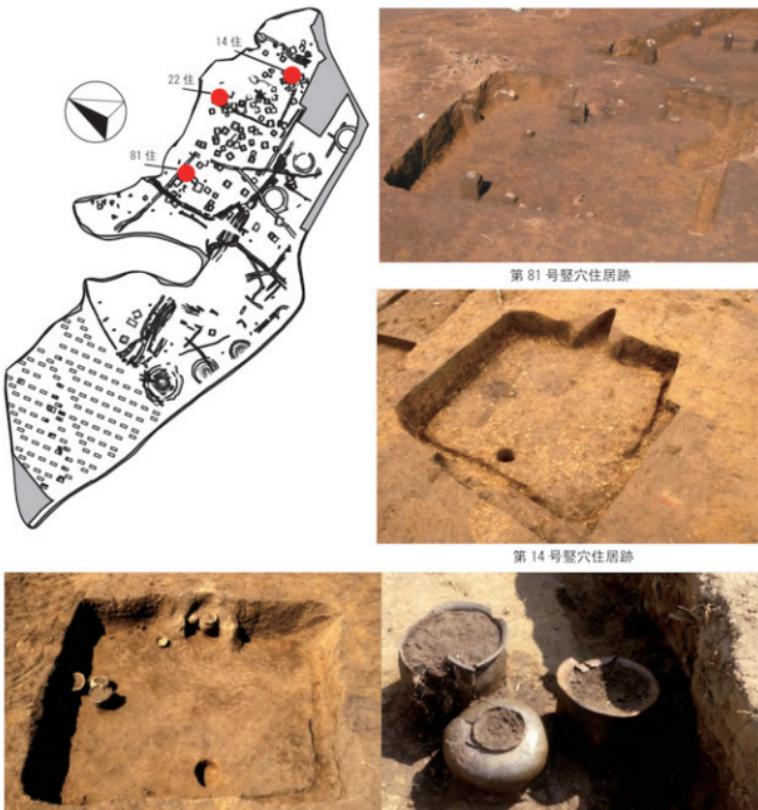
11

- 黒ハギ遺跡
第2266号竪穴住居跡
1～3：須恵器坏
4～8：土師器坏
9：瓶
10：甕
11：紡錘車

第2266号竪穴住居跡出土遺物2

奈良時代以降になると、集落は黒ハギ遺跡を中核として、周辺の奥房台遺跡・五十石遺跡・長塚遺跡・上塚遺跡に衛星状に展開する。堅穴住居跡の規模はやや小型化する傾向にある。

黒ハギ遺跡の谷を挟んで南側に所在する長塚遺跡では、奈良時代以降の堅穴住居跡が数多く検出された。長塚遺跡第81号堅穴住居跡からは、土師器壺、須恵器高台付壺・蓋が出土した。長塚遺跡第22号堅穴住居跡からは、須恵器土師器甕、須恵器短頸壺・甕が床面から一括で出土した。長塚遺跡第14号堅穴住居跡からは、土師器壺・小型甕・甕が出土した。



第 22 号堅穴住居跡

出土状況

長塚遺跡 第14・22・81号堅穴住居跡



1



2



3

長塚遺跡

- 1 ~ 3 : 第 81 号竪穴住居跡
- 4 ~ 7 : 第 22 号竪穴住居跡
- 1 : 土師器坏
- 2 : 須恵器高台付坏
- 3 : 須恵器蓋
- 4 : 須恵器短頸壺
- 5 : 須恵器壺
- 6 ~ 7 : 土師器壺



4



5



6



7

第 81・22 号竪穴住居跡 出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9

長塚遺跡 1~8 : 土師器坏

第14号竪穴住居跡 9 : 土師器小型壺

10 : 土師器壺



10

第14号竪穴住居跡 出土遺物

② その他の出土遺物

鉄器

土気東遺跡群では、鉄器が1,532点出土した。鉄器の主体は、鎌・鉄鏃・刀子が主体を占める。黒ハギ遺跡の南西側に位置する第2206号竪穴住居跡のカマド付近床面から、鋸先が出土した。

鋸先の出土は1点のみに止まっており、鎌などの農耕具の出土量に比べて極端に少ないと言わざるを得ない。おそらく、当該時期における農耕および開墾状況の実態を反映していると思われるが、具体的な内容は不明であり、今後の課題となるであろう。

ハケ調整の土師器

土気東遺跡群では、特に奥房台遺跡においてハケ調整が施された土師器が出土している。篠瀬裕一氏は、その器形等の特徴が静岡県東部を中心にして分布するいわゆる駿東型甕に類似していることを指摘し、7世紀末から8世紀初頭にかけての時期に、駿東地域から土気地区への人間集団の移動の可能性を想定している（第3表1）。



鋸先



第2206号竪穴住居跡

鉄器 鋸先（黒ハギ遺跡）

出土状況

度量衡に関わる出土遺物

土気東遺跡群では、度量衡に関わると考えられる遺物が出土した。44頁1～3は計量舛である。1の計量舛には、平城京出土例(注1)のような底面に「三合一勺」「四合」という計量基準に関わる墨書きはない。しかし、平城京出土例と類似した器形を呈していることから、1も計量舛として用いられた可能性が高い。1のその他の特徴としては、底面の摩耗が著しいことに対して、口縁部には磨り減った痕跡が見あたらないことが挙げられ、その容量は110ccを計る。2・3は、法量も容量も1とは異なるが、1と同様の使用した痕跡が見受けられることから、計量舛として用いられた可能性が高い。

44頁4は竿秤の重り「權」である。蛇紋岩製で亀甲形を呈する。外側に円孔をあけた紐がつく。円孔上部には摩滅跡があり、これは吊り下げて用いられた痕跡であると考えられる。法量は紐11.8cm、横12.2cm、厚さ5.4cm、重さ1,112.1gで、重量は古代の単位に換算すると300匁(30両)に相当する。

度量衡に関わる遺物は、全て8世紀中頃の堅穴住居跡から出土している。

註1 大阪府立考古文化博物館『計る・量る・測る—度量衡の歴史編—』平成19年

畿内系土器

土気東遺跡群では、少數ながらも暗文を施した畿内系土器が出土している。長塚遺跡出土例のものは平城京Iの時期に相当する。

把手付中空円面硯

五十石遺跡第16号堅穴住居跡からは、畿内系土器と共に把手付中空円面硯が完形で出土した。円面



ハケ調整の土師器（黒ハギ遺跡）

硯は把手が付き、把手から硯面の下が中空になっている。把手の部分には穴があいており、硯面には墨を擦った痕跡が肉眼でも容易に観察できる。その構造から、本例は内部に水を入れ、その水で墨を擦っていたと考えられる。時期は8世紀前半頃と考えられる。

畿内系土器と把手付中空円面硯を用いていたことから、五十石遺跡第16号堅穴住居跡の住人は、官人層であることが想定できる。

その他、黒ハギ遺跡から皇朝十二である神功開寶（1枚）・富壽神寶（2枚）が出土した。これらの拓影図は第3表5に、また權と把手付中空円面硯の実測図は第3表の1に掲載されているので、参考されたい。



1



2



3



4

1 黒ハギ遺跡 2・3 長塚遺跡 4 黒ハギ遺跡
度量衡に関わる出土遺物



色調補正後

暗文

畿内系土器（長塚遺跡）



第16号竪穴住居跡



把手付中空円面硯 出土状況



1 把手付中空円面硯



硯面



2 緊内系土器



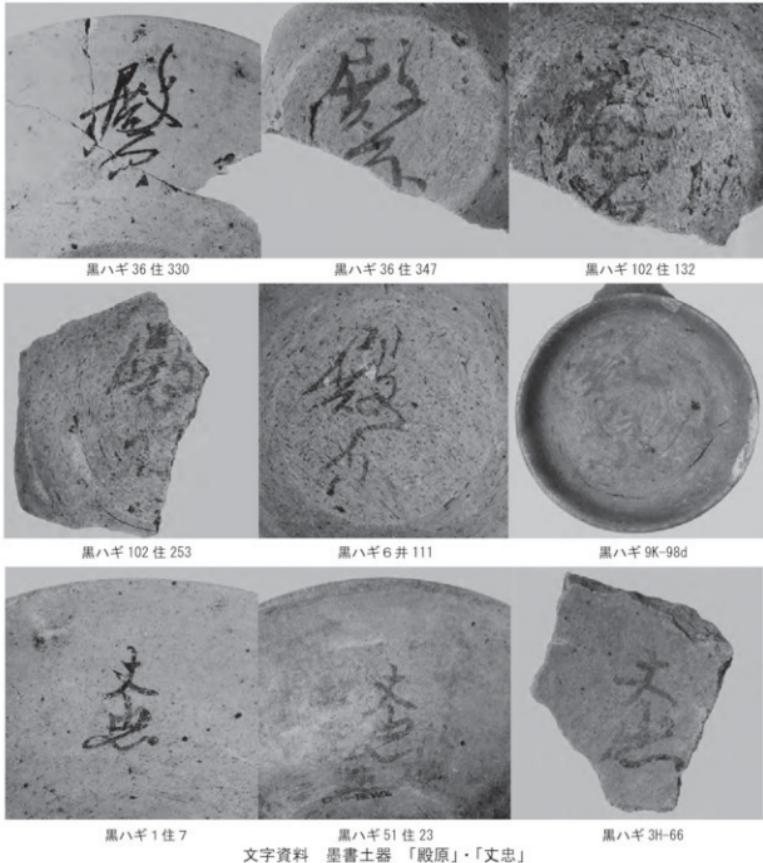
色調補正後
暗文

五十石遺跡 第16号竪穴住居跡・出土遺物

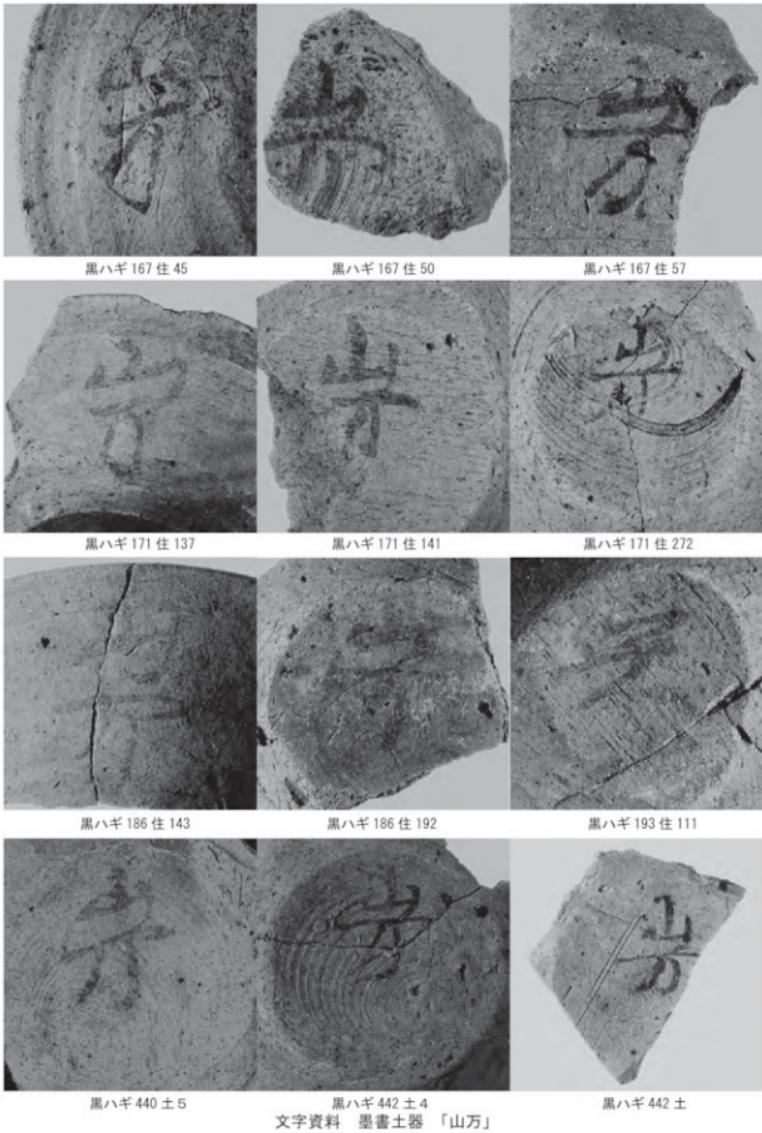
③ 文字資料

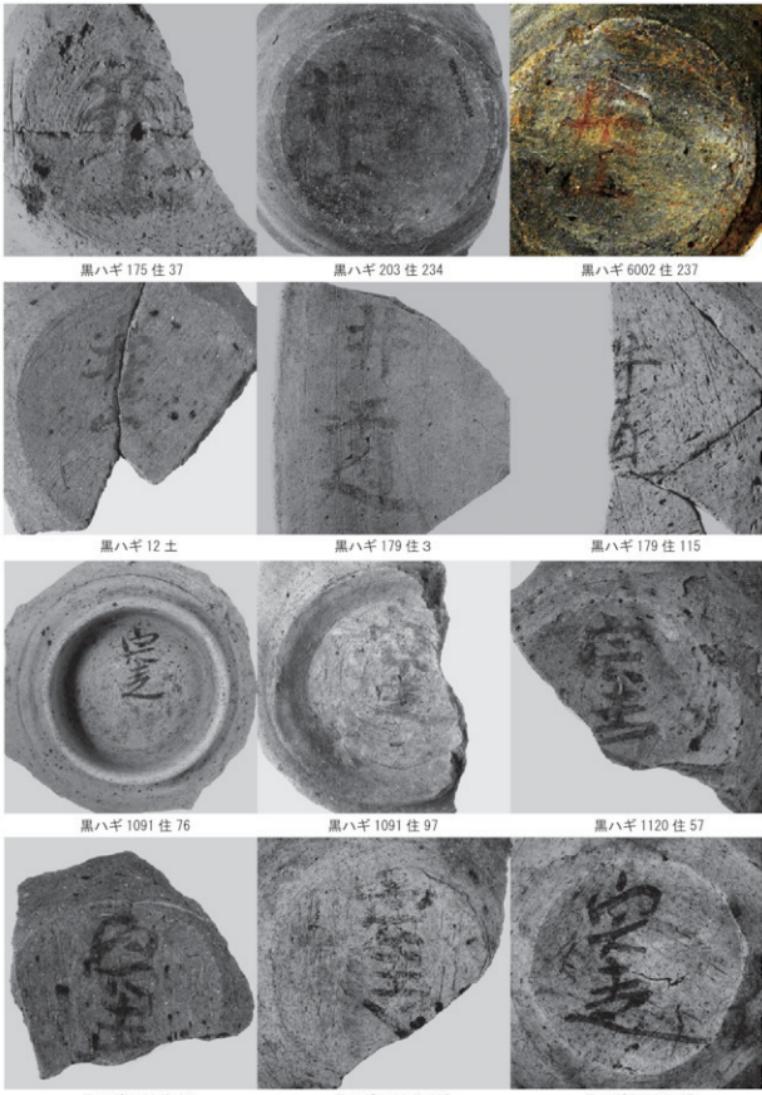
文字資料は、特に黒ハギ遺跡から200点を超える墨書き土器が出土した⁽²¹⁾。今回は文字の判読が可能なものを掲載し、その他の文字資料（線刻土器を含む。）は、第4表に示したとおりである。

註1 「殿原」「太忠」「宍走」「淡南寺」「富主」の譜解は、平川南氏による。その他のものは編者によるものであるので、誤読があれば御指摘・御教示を今後賜りたい。また、今回掲載した資料のほぼ全てが黒ハギ遺跡のものである。その他の遺跡の出土遺物は未洗浄のものが多いので、今後資料の増加が予想される。また奥房台遺跡出土の文字資料は、第3表1を参照されたい。



文字資料 墨書き土器 「殿原」・「太忠」





文字資料 墨書土器「井上」・「井道」・「宍走」



黒ハギ 1120 住 281



黒ハギ 1120 住 289



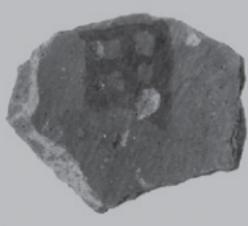
黒ハギ 1120 住 305



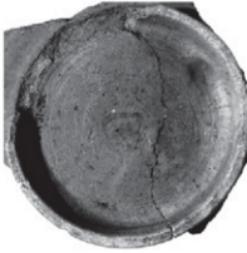
黒ハギ 235 住 234



黒ハギ 2271 住 83



黒ハギ 11 土 3



黒ハギ 31-28c



黒ハギ 57 土 84

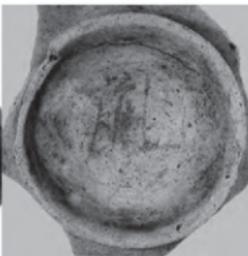


黒ハギ 1053 住 82

文字資料 墨書土器 「宀走」・「田」・「生」



黒ハギ3掘 P4「子山万」(平成2年度調査)



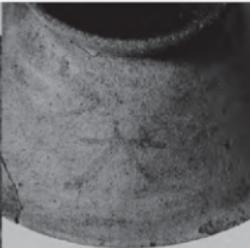
黒ハギ1住 26「胤」



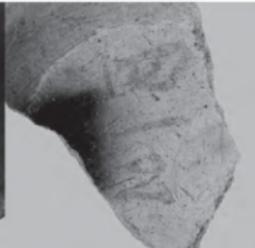
黒ハギ79住 240「中」



黒ハギ10住 139「西」



黒ハギ45住 17「大」



黒ハギ102住 441「四口」



黒ハギ115住 61「槐下」



黒ハギ155住 143「上田」



黒ハギ156住 145「福」



黒ハギ171住 125

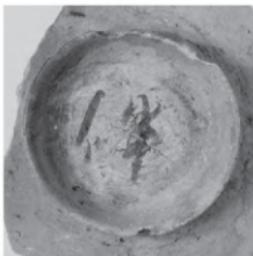


黒ハギ197住 130「新成」



黒ハギ210住 16「福万」

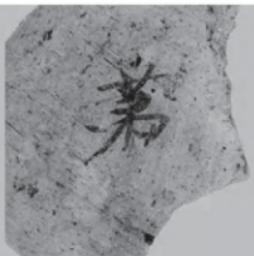
文字資料 墨書土器 その他 1



黒ハギ 264 住 61 「伴」



黒ハギ 222 住 44 「万」



黒ハギ 399 住 7 「口」



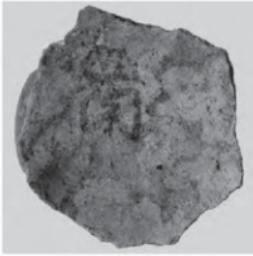
黒ハギ 1095 住 20 「門」



黒ハギ 1120 住 6 「長井」(内面)



黒ハギ 1120 住 6 「井」(外面)



黒ハギ 1158 住 220 「南」



黒ハギ 2208 住 26 「孫」



黒ハギ 2227 住 1 「野井」



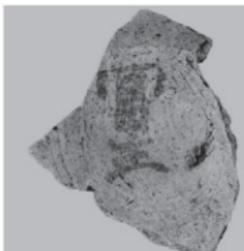
黒ハギ 6002 住 「口」



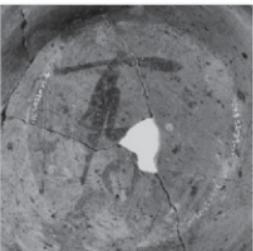
黒ハギ 1091 住 12 「永主穴走」か
文字資料 墨書土器 その他 2



黒ハギ 1091 住 90 「永主口」



黒ハギ 253 住 13 「富主」



上塙 24 住 12 「万得」か



上塙 29 住 58 「福」か



黒ハギ 253 住 13 「口満」



黒ハギ 411 住 140 「済南寺」



黒ハギ 1068 住 160 「梨寺」か



黒ハギ 1072 住 239 「三枝」か

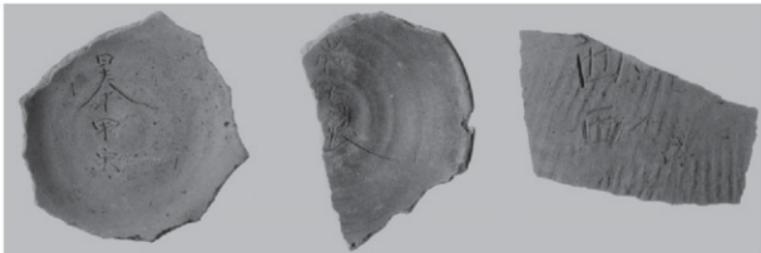


黒ハギ 1158 住 248 「貞」か



黒ハギ 1158 住 251 「野井上」

文字資料 墨書土器 その他 3



黒ハギ 10住 165 「日泰甲宋」

黒ハギ 10住 157 「口口部稻口」

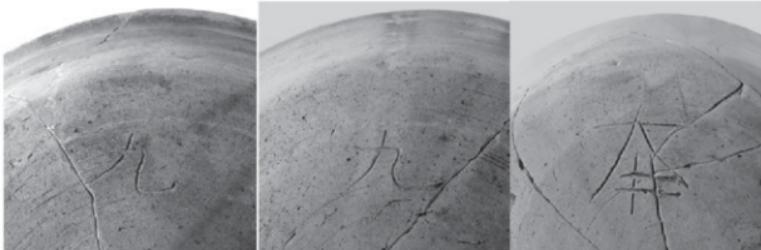
黒ハギ 1028住 28 「西西」



黒ハギ 226住 170 「井上」

黒ハギ 103住 150 「井上」

黒ハギ 6井 52 「野井」か



黒ハギ 1232住 2 「九」

黒ハギ 1232住 83 「九」

黒ハギ 1232住 87 「大井」

文字資料 刻書土器

第4表-1 土氣東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考	
黒八号	1住	15	环	墨書	不明	平成2年度調査区	
		42	皿	墨書	井□□		
	1住	7	环	墨書	丈忠		
		12	环	墨書	丈忠		
		26	高台付皿	墨書	胤		
	10住	139	环	墨書	西		
		157	环	刻書	□□部稻□		
		165	环	刻書	日奉甲榮		
	27住		环	墨書	不明		
	36住	158	环	墨書	不明		
		330	环	墨書	殿原		
		337	鉢	墨書	殿原		
		347	环	墨書	殿原		
		377	皿	墨書	不明		
		4区	环	墨書	不明		
42住	6	环	線刻	擬似木葉痕			
	17	高台付环	墨書	大			
	60	环	墨書	不明			
	23	环	墨書	丈忠			
	80	环	墨書	丈忠			
	13	环	墨書	不明			
	35	环	墨書	生			
		环	線刻	擬似木葉痕			
		环	墨書	生			
	42	环	線刻	「-」			
68住		环	墨書	不明			
	28	环	墨書	不明			
		环	墨書	生			
	38	环	墨書	不明			
	50	环	墨書	富生			
	87	环	墨書	不明			
	240	皿	墨書	中			
		环	線刻	擬似木葉痕			
	10	环	線刻	「+」			
	15	环	墨書	不明			
70住	91	环	墨書	殿原			
	132	环	墨書	殿原			
	173	环	墨書	殿原			
	253	环	墨書	殿原			
	441	环	墨書	四口			
	444	环	墨書	殿原			
		环	墨書	不明			
98住							
102住							

第4表－2 土氣東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考
黒八寺	102 住		壺	墨書	不明	
		150	高台付壺	刻書	井上	
	103 住	150	高台付壺	刻書	井上	
	112 住	一括	壺	墨書	井	
	115 住	22	壺	墨書	不明	
		61	壺	墨書	殿原	
	126 住	12	壺	墨書	不明	
	129 住	3区	壺	墨書	不明	
	139 住	一括	壺	墨書	不明	
	144 住	366	壺	線刻	擬似木葉痕	
		122	壺	線刻	「一」	
	147 住	122	壺	線刻	放射状	
		151	壺	線刻	放射状	
		152	壺	線刻	「+」	
	152 住	10	壺	墨書	不明	
	153 住	85	壺	墨書	福	
	154 住	477	壺	線刻	「宍」	
155 住		5	壺	墨書	上口	
		155	壺	墨書	□田	
		170	壺	墨書	不明	
		184	壺	墨書	上口	
		105・143	壺	墨書	上田	
	156 住	95	皿	墨書	不明	
		145・146	皿	墨書	富	
	169 住		壺	墨書	不明	
		110	壺	墨書	不明	
		125	皿	墨書	子井	
171 住		137	壺	墨書	山万	
		141	壺	墨書	山万	
		195	壺	墨書	不明	
		235	壺	線刻	「一」	
		272	壺	墨書	山万	
		280	壺	墨書		
		282	壺	墨書	山万	
		271・270・ 275・276・280	壺	墨書	子井	
		一括	壺	墨書	不明	
		24	壺	墨書	富主	
172 住		136	壺	墨書	富主	
		197	皿	墨書	不明	
		199	壺	墨書	富主	
		一括	壺	墨書	不明	
		一括	壺	墨書	富主	

第4表－3 土気東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考
黒八号	172 住	一括	环	線刻	「寺」	
		18	环	墨書	富主	
		20	环	墨書	不明	
		73	环	墨書	富	
		82	环	墨書	不明	
		86	环	墨書	富主	
		111	环	墨書	富主	
		214	环	墨書	不明	
	173 住	235	环	墨書	不明	
		243	皿	墨書	不明	
		422	环	墨書	不明	
		501	环	墨書	不明	
		503	环	刻書	富	
		一括	环	墨書	不明	
		一括	环	墨書	不明	
		一括	环	墨書	不明	
		一括	环	墨書	不明	
	175 住	37	环	墨書	井上	
	179 住	113・114・ 115・117	环	墨書	井道	
		3・22	环	墨書	井道	
	181 住	27	环	刻書	井上	
	186 住	143	环	墨書	不明	
		144	环	墨書	西	
		157	环	墨書	山万	
		192	环	墨書	山万	
		193	环	墨書	不明	
		4区	环	墨書	不明	
			环	墨書	不明	
	187 住	45	环	墨書	山万	
		50	环	墨書	山万	
		57	环	墨書	山万	
	193 住	60	环	線刻	「井」	
		164	环	墨書	不明	
		170	环	墨書	富主	
		171	环	墨書	富口	
		180	环	墨書	不明	
		215	环	墨書	富	
		106・111	皿	墨書	不明	
		3区	环	墨書	不明	
		4区	环	墨書	富	
		床下一括	环	墨書	不明	
	195 住	115	环	墨書	不明	

第4表－4 土氣東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考
黒八号	195住	172	蓋	刻書	井上	
		一括	坏	墨書	口家	
	197住	4	坏	墨書	不明	
		9	坏	墨書	不明	
		130・132	坏	墨書	新成	
	199住	58	坏	線刻	「=」	
		248	坏	線刻	「-」	
	203住	234	坏	墨書	井上	
		294	坏	朱書	井上	
	210住	16	坏	墨書	福万	
			坏	線刻	「才」	
	222住	44	坏	墨書	千万	
	226住	170	高台付坏	刻書	井上	
	232住	1	皿	線刻	「井」	
	235住	106	坏	線刻	放射状	
		239	坏	墨書	田	
	238住	31	坏	墨書	不明	
	253住	13	坏	墨書	口満	
		1区	坏	墨書	不明	
	254住	99	坏	墨書	平	
		310	坏	墨書	不明	
	258住	51	坏	線刻	「×」	
	264住	47	坏	墨書	不明	
		61	高台付坏	墨書	伴	
	272住	2	坏	墨書	山	
	280住	6	高台付坏	墨書	不明	
285住	3	坏	墨書	殿原		
		13	坏	墨書	富	
	確認面	坏	墨書	不明		
286住	63	坏	墨書	不明		
	113	坏	墨書	山万		
	2区	坏	墨書	不明		
	288住	2	坏	墨書	不明	
		確認面	坏	墨書	百万	
			坏	墨書	不明	
	291住	一括	坏	墨書	不明	
	309住	20	坏	墨書	不明	
	310住	7	坏	墨書	不明	
	399住	7	坏	墨書	口	
	411住	140	皿	墨書	洪南寺	
	1028住	208	甕	刻書	西西	
	1033住	63	坏	線刻	「-」	

第4表－5 土気東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考	
黒八号	1034 住	60	环	刻書	不明		
		4区	环	墨書	不明		
		17	环	縞刻	「×」		
		47	环	墨書	子井		
		82	环	墨書	生		
		1053 住	182	环	墨書	不明	
			2区	环	墨書	不明	
			34	环	墨書	不明	
			46	环	墨書	井口	
		1058 住	166	环	墨書	梨口	
1068 住	1072 住	235	环	墨書	不明		
	1072 住	239	环	墨書	三枝か		
		12	高台付环	墨書	永主・穴走か		
		16	环	墨書	不明		
		55	环	墨書	不明		
		61	环	墨書	不明		
		67	高台付环	墨書	穴走		
		67	高台付环	墨書	穴走		
		69	环	墨書	穴走		
		76	高台付环	墨書	穴走		
		84	环	墨書	不明		
		90	环	墨書	永主□		
		1区	环	縞刻	不明		
		2区	环	墨書	富		
		3区	环	墨書	不明		
		4区	高台付环	墨書	東		
		一括	环	墨書	不明		
	1092 住	272	环	墨書	不明		
1095 住	20	环	墨書	門			
1120 住	6	皿	墨書	長井・井	内面「長井」、外面「井」		
	9	环	墨書	穴走			
	26	环	墨書	穴走			
	57	环	墨書	穴走			
	65	环	墨書	穴走			
	71	环	墨書	穴走			
	81	环	墨書	不明			
	84	环	墨書	穴走			
	85	环	墨書	穴走			
	103	甕	縞刻	「井」			
	140	环	墨書	不明			
	171	环	墨書	不明			
	197	环	墨書	不明			

第4表－6 土氣東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考
黒八号		218	环	墨書	宍走	
		221	环	墨書	宍走東	
		281	环	墨書	宍走	
		283	环	墨書	不明	
		285	环	墨書	宍走	
		287	环	線刻	「×」	
		287	环	墨書	宍走	
1120 住		289	环	墨書	宍走	
		300	高台付环	墨書	不明	
		305	环	墨書	宍走	
		331	环	墨書	宍走	
	1 区	环	墨書	不明		
	2 区	环	墨書	不明		
	P-1L	环	墨書	不明		
	P-4	环	墨書	不明		
1122 住		70	环	墨書	不明	
1124 住		45	环	刻書	人	
		7	环	墨書	生	
1130 住		25	环	墨書	長□	
		125	环	墨書	長□	
	3区	环	墨書	不明		
1131 住		430	环	刻書	大	
1134 住		29	环	墨書	不明	
		104	环	墨書	□支	
1145 住		4区	高台付环	墨書	不明	
1147 住		96	环	墨書	不明	
		149	环	墨書	不明	
1158 住		220	高台付环	墨書	南	
		248	环	墨書	宍	
		251	环	墨書	野井上	
		90	环	墨書	中	
1212 住		114	皿	朱書	不明	
		7・72	环	線刻	「-」	
1213 住		44・45	环	線刻	「-」	
1221 住		27	环	墨書	不明	
		113	环	墨書	□井	
1341 住		10	环	墨書	汎南寺	
2011 住		3	环	墨書	万	
		103	皿	墨書	不明	
2202 住		111	环	墨書	井	
		203	甕	刻書	不明	
	2208 住	27	环	墨書	宍走	

第4表－7 土気東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考
黒八号	2208 住	76	环	墨書	孫	
	2209 住	一括	环	墨書	宍走	
	2213 住	2 区	环	墨書	不明	
	2227 住	1	环	墨書	野井	
	2247 住	98	环	墨書	富主	
	2267 住	101	环	刻書	大井	
	2271 住	83	环	墨書	田	
	4309 住	14	环	墨書	生	
	6002 住	11	环	墨書	不明	
		237・241	环	墨書	宍走	
3 挖	P4	高台付环	墨書	子山万	平成2年度調査区	
36 挖	P2	环	墨書	不明		
40 挖	P15	环	墨書	不明		
93 挖	P3	环	墨書	不明		
103 挖	4	环	墨書	不明		
	P12	环	墨書	不明		
116 挖	P9	环	線刻	不明		
	P9	环	墨書	不明		
1062 挖	16	鉢	刻書	不明		
6 井	111	环	墨書	殿原		
	52	环	刻書	野井か		
11 土	13	环	墨書	田		
12 土	一括	环	墨書	井上		
21 土	一括	环	墨書	不明		
38 土	4	环	墨書	不明		
47 土	一括	环	墨書	不明		
57 土	84	环	墨書	生		
	85	环	墨書	巾		
107 土	6	环	墨書	不明		
	6	环	墨書	富		
	11	环	墨書	田生		
109 土	一括	环	墨書	不明		
	一括	环	墨書	不明		
137 土	一括	环	線刻	「一」		
156 土	6	环	墨書	山万		
	32	环	墨書	山万		
186 土	一括	环	墨書	不明		
199 土	17	环	刻書	不明		
	一括	环	墨書	不明		
247 土	一括	环	墨書	不明		
429 土	13	环	墨書	天		
440 土	5	环	墨書	山万		

4表-8 土気東遺跡群 文字資料一覧表

遺跡名	遺構番号	遺物番号	器種名	種類	内容	備考
黒八号	442 土	4	环	墨書	山万	
		20	环	墨書	山万	
		一括	环	墨書	山万	
	1001 土	13	环	墨書	不明	
	1040 土	5	环	墨書	不明	
	2399 土	12	环	墨書	口吉	
		17	环	墨書	不明	
		一括	环	墨書	西	
	10 溝		高台付环	墨書	不明	
	17 溝		环	線刻	「井」	
グリッド	115 溝	一括	环	墨書	山昌	
	132 溝	P5	环	墨書	不明	
			环	線刻	「+」	
	134 溝		环	線刻	「-」	
	154 溝	16	环	線刻	井	
	1010 溝	141	环	線刻	「-」	
		187	皿	墨書	宋	
	1032 溝	22	皿	墨書	野井上	
	グリッド	一括	环	墨書	丈忠	3H-66
		一括	环	墨書	不明	3H-76
		一括	高台付环	墨書	田	3I-28
		27	环	墨書	不明	3J-38
		8	环	墨書	山万	4I-97
		一括	高台付环	墨書	殿原	4K-98
		一括	环	墨書	不明	6J-44
上塚	不明	不明	环	墨書	不明	
	24 住	12	环	墨書	万得か	
	29 住	58	皿	墨書	福か	

④ 堀立柱建物跡

堀立柱建物跡の検出数は計309棟と、豎穴住居跡の計1233軒に比べ総数は少ない。遺跡別の検出数を見ると（第2表）、黒ハギ遺跡の231棟が圧倒的で、次いで上塚遺跡の51棟が後に続いている状況である。

堀立柱建物跡は、黒ハギ遺跡では、遺跡北側から数多く検出される傾向にある。黒ハギ遺跡北側には中・近世の遺構群が密集しているので、堀立柱建物跡の所属時期の分析には慎重な検討の余地があるが、9世紀代に堀り方の大きな堀立柱建物跡群が現れる傾向が見られる。

上塚遺跡からは、大型の堀立柱建物跡（第34号堀立柱建物跡）や総柱の堀立柱建物跡（第46号堀立柱建物跡）が検出された。上塚遺跡は、東側に方形構造遺構とそれに囲まれた2棟の大型堀立柱建物跡が所在する荻生道遺跡と上總国分寺創建期と同范関係にある瓦が出土した小食土廃寺と隣接している。上塚遺跡における堀立柱建物跡の分析は、荻生道遺跡と小食土廃寺との関係が今後の課題となるであろう。

⑤ 井戸状遺構

黒ハギ遺跡から、性格不明ないわゆる井戸状遺構が2基検出された。共に規模が大きい土壙で、遺構上面は4m、深さは2.5mを測る。第6号井戸からは、大量の遺物しており、特に「殿原」の墨書き器と「野井」の刻書き器の存在は、遺構の性格を考える上で重要な資料である。また、第5006号土壙



第34号堀立柱建物跡



第46号堀立柱建物跡

上塚遺跡 第34・46号堀立柱建物跡

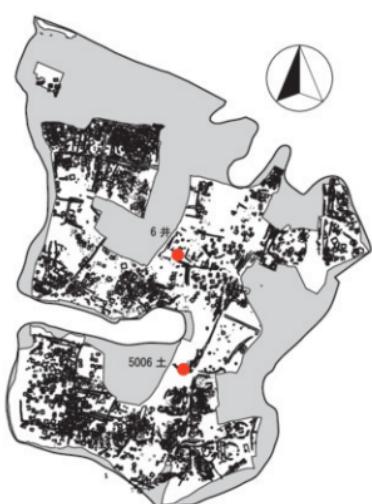
からは遺物は出土しなかったが、壁面からピット状の穴を数基検出したことにより、井戸状遺構には上屋を架けていた可能性が考えられる。

井戸状遺構は、土気東遺跡群の他に現おゆみ野地区に所在していた神明社裏遺跡などにも事例（255土坑）があり⁽¹¹⁾、今後は他地域の事例との比較検討が課題となるであろう。

註1 財團法人千葉県教育振興財團文化財センター『千葉東南部ニュータウン38』平成20年

⑥ 道・溝状遺構

土気東遺跡群では、多数の道・溝状遺構が検出された。その大半は中・近世に属するものと考えられるが、堅穴住居跡との切り合い関係から、時期が8世紀後半以降にまで遡りその後長期間に渡って



第5006号土壤



作業風景



「殿原」 「野井」か
第6号井戸 出土文字資料

第6号井戸

井戸状遺構（黒ハギ遺跡）

使用されていた可能性がある道状遺構も検出された。

黒ハギ遺跡で検出された道状遺構は、谷津の底面から台地上を南北に通り、台地斜面部では断面V字形型の切り通し状を呈する。底面には被板状の凹凸があるのが特徴である。この凹凸は路盤を安定させるために意図的に構築されたと考えられる。

長塚遺跡の道状遺構は、東西を横断するような状態で数多く検出された。二本の側溝を有するのが特徴である。これらは、大網から吾田方面を結ぶ通称「土氣往還」の旧道として長期間にわたって使用されていたと考えられる。



台地上を望む

谷を望む



覆土堆積状況

道状遺構（黒ハギ遺跡）

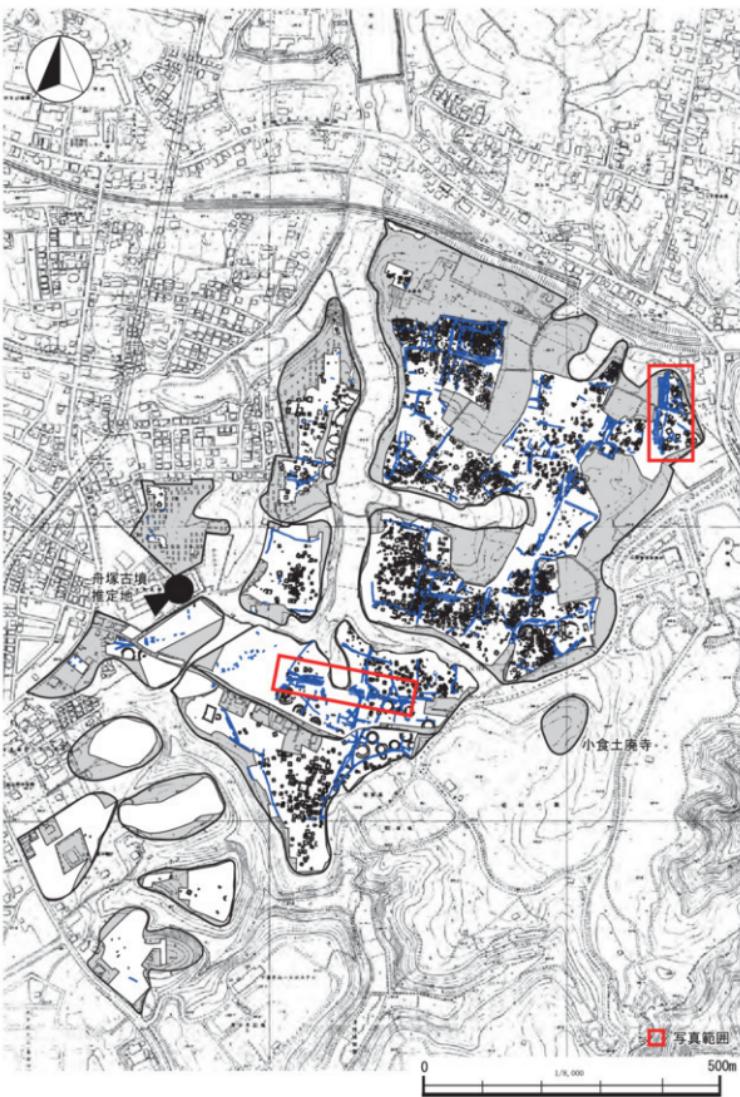
作業風景



舟塚古墳推定地を望む

道・溝状遺構（長塚遺跡）

小食土庵寺を望む



土氣東遺跡群 道・溝状造構位置図

⑦ 古墳

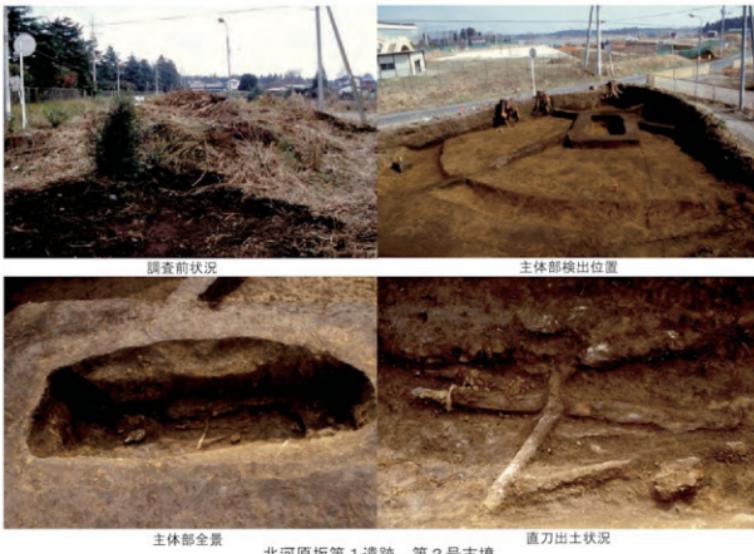
土気地区に展開する古墳は、土気東遺跡群の調査の伸展に伴い事例を増やしており、その基數は31基を数える（土気地区 古墳・方形区画墓分布図、第5表）。分布状況と立地状況から、土気地区的古墳群は、長塚遺跡の北側に面した谷津を境に、鹿島川と村田川の分水嶺上にある一群（以下、A古墳群）と黒ハギ遺跡を中心とした一群（以下、B古墳群）の2群に大別することができよう。

A古墳群は、舟塚古墳を中心とする古墳群である。舟塚古墳は、墳丘と石室の構造から後期古墳と考えられている（註1）。A古墳群の分布域は、舟塚古墳を北限として南東方向に展開している。分布域の南限は枯木台南遺跡第1号古墳である。A古墳群では25基の古墳が検出されたが、荻生道遺跡と枯木台南遺跡の未調査地にも古墳が存在することが予想される。

B古墳群は、東城楽台遺跡第1号古墳を中心とする古墳群である。同古墳も二重周溝と砂岩製切石積み横穴式石室が検出されており、後期古墳と考えられている。B古墳群の基數は、計6基とA古墳群に比べると数は少ないが、これは黒ハギ遺跡の南東側が中世以降の土地の改変によるもので、本来は鹿島川水系によって開析された谷を臨むように古墳群が展開していたと推測される。

土気地区的古墳の大半は破壊を受けており、時期を明らかにする資料は乏しいと言わざるを得ない。しかし、舟塚古墳と東城楽台遺跡第1号古墳が各支群の盟主墳の位置にあり、これを契機として古墳群が形成されたと考えられるならば、両古墳群は後期の古墳群と推測することが妥当と思われる。

註1 第3表32





調査前状況



周溝検出状況



填丘構造状況



主体部検出位置



第1主体部全景



直刀・鉄鎧出土状況

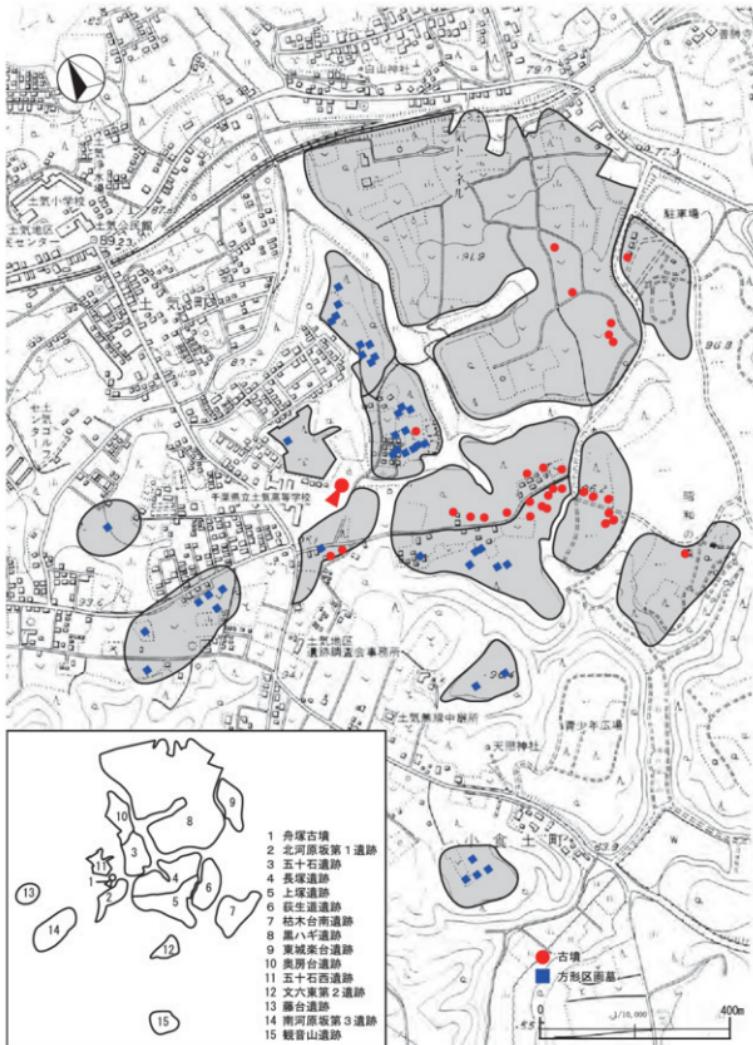


第3主体部全景



直刀出土状況

長塚遺跡 第5号古墳



土氣地区 古墳・方形区画墓分布図

第5表 土氣地区 古墳一覧表

	遺跡名	遺構番号	種別	規模		埋葬施設	副葬品	備考
1 舟塚古墳			前方後円墳	墳丘長	37m	砂岩切石積み横穴式石室 1基	-	二重周溝
				後円部				
				直径	墳丘高			
				19m	3.6m			
				前方部				
2 遺跡名				幅	墳丘高	砂岩切石積み横穴式石室 1基	-	二重周溝
				25m	3.9m			
3 北河原坂第1遺跡				規模		埋葬施設	副葬品	備考
				直径	墳丘高			
				円墳	17.5m			
				円墳	16m	木棺直葬 1基	直刀	
				円墳	3.2m			
4 五十石遺跡				第1号古墳	円墳	木棺直葬 4基	直刀 鐵劍 刀子	
				第2号古墳	円墳			
				第3号古墳	円墳			
				第4号古墳	円墳			
				第5号古墳	円墳	34m	3m	
5 長塚遺跡				第6号古墳	円墳	木棺直葬 4基	直刀 鐵劍 刀子	
				第7号古墳	円墳			
				第8号古墳	円墳			
				第9号古墳	円墳			
				第10号古墳	円墳			
6 上塚遺跡				第11号古墳	円墳	木棺直葬 4基	直刀 鐵劍 刀子	
				第12号古墳	円墳			
				第13号古墳	円墳			
				第14号古墳	円墳			
				第15号古墳	円墳			
19 萩生道遺跡				第16号古墳	円墳	木棺直葬 4基	直刀 鐵劍 刀子	
				第17号古墳	円墳			
				第18号古墳	円墳			
				第19号古墳	円墳			
				第20号古墳	円墳			
21 枯木台南遺跡				第21号古墳	円墳	木棺直葬 4基	直刀 鐵劍 刀子	
				第22号古墳	円墳			
				第23号古墳	円墳			
				第24号古墳	円墳			
				第25号古墳	円墳			
26 黒ハギ遺跡				第1号古墳	円墳	木棺直葬 4基	直刀 鐵劍 刀子	
				第2号古墳	円墳			
				第3号古墳	円墳			
				第4号古墳	円墳			
				第5号古墳	円墳			
28 東城楽台遺跡				第6号古墳	円墳	木棺直葬 4基	直刀 鐵劍 刀子	
				第7号古墳	円墳			
				第8号古墳	円墳			
				第9号古墳	円墳			
				第10号古墳	円墳			
31 東城楽台遺跡				第1号古墳	円墳	砂岩切石積み横穴式石室 1基	直刀 鐵劍 刀子	二重周溝
				第2号古墳	円墳			
				第3号古墳	円墳			
				第4号古墳	円墳			
				第5号古墳	円墳			

直径は、周溝外周の推定値。

⑧ 方形区画墓

土気地区に展開する方形区画墓は、土氣東遺跡群の調査の伸展に伴い事例を増やしており、その基数は41基を数える（土気地区 古墳・方形区画墓分布図・第6表）。分布状況と立地状況から、土気地区の方形区画墓は、鹿島川と村田川の分水嶺上にあるA古墳群を境に北側（以下、A方形区画墓群）と南側（以下、B方形区画墓群）の2群に大別することができよう。

A方形区画墓群は、五十石遺跡第1号方形区画墓を中心とする一群であり、その分布域は五十石遺跡・奥房台遺跡・五十石西遺跡・北河原坂第1遺跡に展開する。

五十石遺跡第1号方形区画墓からは南に開口する横穴式石室状の掘りこみを持つ主体部が検出され、主体部からは焼骨を納めた土師器蔵骨器と共に特殊足金具付短刀と鉄鑓が副葬品として納められていた。蔵骨器の年代観から、時期は8世紀中頃と考えられる。以上のように、五十石遺跡第1号方形区画墓には、主体部の構造と副葬品という厚葬の葬法と火葬という薄葬の葬法が共存しており、そこに土気地区における古墳の消滅過程と古墳時代から奈良時代への時代の変遷を看取できる。その意味で、五十石遺跡第1号方形区画墓は貴重な事例である。

B方形区画墓群の分布域は上塚遺跡・文六東第2遺跡・藤台遺跡・南河原坂第3遺跡・觀音山遺跡に展開する。時期は、上塚遺跡における方形区画墓と8世紀前半の堅穴住居跡との切り合い関係から、8世紀中頃と考えられ、B方形区画墓群はA方形区画墓群とはほぼ同時期に形成されたと考えられる。



五十石遺跡 第1号方形区画墓



副葬品出土状況



鐵鎧



藏骨器



特殊足金具付短刀



藏骨器内の焼骨



周溝内出土状況



つまみ付蓋

五十石遺跡 第1号方形区画墓 出土遺物

第6表 土気地区 方形区画墓一覧表

	遺跡名	遺構番号	規模	埋葬施設	副葬品	備考
1 奥 房 台 遺 路	第1号方形区画墓	5.8m×7.0m	藏骨器・土壤	—		
	第2号方形区画墓	6.1m×8.4m	石櫃・土壤	—		
	第3号方形区画墓	9.1m×9.15m	木炭・火焼骨入り土壤	—		
	第4号方形区画墓	(6.0)m×(7.0)m	石櫃・土壤	—		
	第5号方形区画墓	(8.1)m×8.7m	—	—		
	第6号方形区画墓	(-)×6.8m	—	—		
	第7号方形区画墓	6.35m×6.3m	—	—		
	第8号方形区画墓	8.8m×8.4m	—	—		
	第9号方形区画墓	5.7m×5.7m	小ピット	—		
10 五 十 石 西 遺 路	第1号方形区画墓	6.8m×7.1m	—			
11 五 十 石 遺 路	第1号方形区画墓	17.2m×16.1m	藏骨器・横穴石室状主体部	特殊足金具付 短刀・鉄鏃		
	第2号方形区画墓	5.0m×5.1m	—			
	第3号方形区画墓	(3.2)m×5.1m	—			
	第4号方形区画墓	(-)×6.9m	—			
	第5号方形区画墓	5.15m×6.2m	木炭・火焼骨入り土壤			
	第6号方形区画墓	6.0m×6.1m	—			
	第7号方形区画墓	5.0m×5.1m	—			
	第8号方形区画墓	6.0m×6.1m	—			
	第9号方形区画墓	(5.1)m×6.1m	—			
	第10号方形区画墓	6.1m×7.2m	—			
	第11号方形区画墓	6.3m×7.2m	—			
22 北河原坂第1遺跡	第1号方形区画墓	(4.5)m×(4.5)m	—	—		
23 上 塚 遺 路	第1号方形区画墓	15.5m×15.6m	木炭・火焼骨入り土壤	—		
	第2号方形区画墓	11.2m×11.1m	木炭・火焼骨入り土壤	—		
	第3号方形区画墓	8.35m×8.5m	—	—		
	第4号方形区画墓	11.2m×11.1m	木炭・火焼骨入り土壤	—		
	第5号方形区画墓	(8.3)m×(8.4)m	—	—		
	第6号方形区画墓	(8.2)m×(8.17)m	—	—		
	第1号方形区画墓	6.1m×(4.8)m	—			
29 文 六 東 第 2 遺 路	第2号方形区画墓	7.2m×7.3m	—			
30						
31 藤 台 遺 路	第1号方形区画墓	3.17m×4.1m	—	—	周溝内、 方形ピット	
32 南河原坂第3遺跡	第1号方形区画墓	6.0m×7.6m	—	—		
33	第2号方形区画墓	6.0m×7.7m	—	—		
34	第3号方形区画墓	5.3m×5.4m	—	—		
35	第4号方形区画墓	7.5m×7.4m	—	—		
36	第5号方形区画墓	3.1m×3.2m	—	—		
37	第6号方形区画墓	5.3m×5.4m	—	—		
38 觀 音 山 遺 路	第1号方形区画墓	15.0m×15.0m	—	—	墳丘残存。 高さ2m	
39	第2号方形区画墓	6.3m×5.28m	—	—		
40	第3号方形区画墓	4.45m×4.48m	—	—		
41	第4号方形区画墓	5.57m×5.4m	—	—		

規模は、南北×東西。() は残存値を示す。

4 中・近世

中・近世の遺構は、特に黒ハギ遺跡の北側と南側から集中して検出された。

北側遺構群の中心は、道状遺構や長方形に巡らせた溝状遺構（規模約75m×45m）と、区画内の大型掘立柱建物跡群である。道・溝状遺構からは、中世陶器（渥美産・常滑産・瀬戸産）・貿易陶器・カワラケ・内耳土器・滑石製石鍋・瓦質火鉢・板碑・五輪塔・銅錢などが多く出土した。遺構群の規模と遺物の内容から、北側遺構群は居館跡と推定され、時期は13世紀後半から14世紀代と考えられる。

南側遺構群の中心は、台地を広範囲に深く掘り下げていた台地整形区画である。その規模は、大型のもので約25m×25m、深さ0.8m、小型のもので東西約7.5m×南北9m、深さ0.5mを測る。形状はいずれも不整形である。その内部からは、作業場や降雨の際の水溜としての機能を有していたと考えられる約6m×7mの楕円形の窪み、掘立柱建物跡、土壤、地下式坑、ピット群が検出された。出土遺物は、青磁碗・常滑産甕・こね鉢・瀬戸・美濃産縁軸皿・卸皿・折縁深皿・鉗鉢・カワラケなどである。また、地鎮のために埋納されたと考えられる銅錢も出土した。銭の枚数は計453枚を数える。以上のような遺構群の規模と遺物の内容から、南側遺構群は屋敷跡と推定され、時期は14～15世紀代と考えられる。



北側遺構群 航空写真（南から）



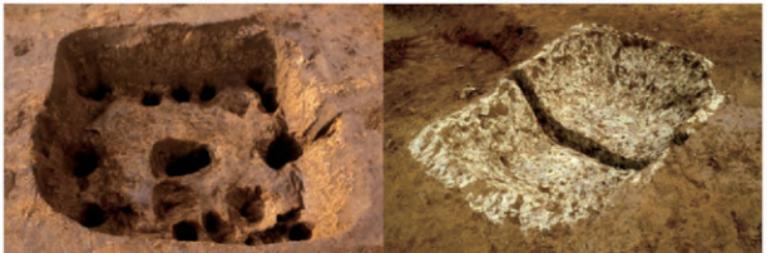
南側遺構群 航空写真（東から）

黒ハギ遺跡 中・近世遺構群



台地整形区画

台地整形区画出土繩錆



堅穴建物跡

粘土貼り土壤



地下式坑

火葬墓



井戸跡

断ち割り状況
黒ハギ遺跡 中・近世各種遺構

第4章　まとめ

土気東遺跡群の構成

土気東遺跡群内に所在する計12ヶ所の遺跡は、小支谷と遺構の分布状況から、遺跡群の中核をなす黒ハギ遺跡、黒ハギ遺跡の衛星的集落跡である奥房台遺跡・五十石遺跡・五十石西遺跡と、北河原坂第1遺跡・長塚遺跡・上塚遺跡、遺構の分布が希薄である文六西第1遺跡・文六西第2遺跡・文六東第1遺跡・文六東第2遺跡・宮台遺跡の計4ヶ所のグループに大別される（土気東遺跡群　遺跡群構成模式図）。

延べ12年間の発掘調査で、土気東遺跡群からは、旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良～平安時代・中・近世と多岐に渡る時代の遺構・遺物が検出・出土した。

旧石器時代：石器集中区は、鹿島川と村田川の源流域に面した台地の縁辺部から検出された。

縄文時代：縄文時代早期後半の炉穴群・集石跡と中期の堅穴住居跡が検出された。炉穴群と集石跡は、両河川の源流域に面した台地の斜面部に集中して検出された。時期は縄文時代早期後半と考えられる。堅穴住居跡の時期は中期前半（阿玉台式期）と中期後半（加曾利式期）だが、その検出数は計5軒と少ない。検出された土壤の大半は落とし穴であり、遺跡群全域から検出された。

古墳～平安時代：当該時期が本遺跡群の中心をなしている。堅穴住居跡・掘立柱建物跡・古墳・方形区画墓・道・溝状遺構など様々な遺構が検出された。

古墳は分水嶺上に集中して分布しており、古墳群の形成は、土気地区唯一の前方後円墳である舟塚古墳を契機に古墳時代後期（7世紀代）を中心に築造されたと考えられる。古墳の大半は、中世以降の破壊を受けていたが、北河原坂第2号古墳や長塚遺跡第5号古墳のように主体部が残存していた例もあった。主体部の構造は木棺直葬が主体を占めていた。

古墳に続く後代の墓制である方形区画墓は、奈良時代（8世紀中頃以降）の築造年代が考えられ、古墳群を境に南北に分布する。特に五十石遺跡第1号方形区画墓は、横穴石室状の主体部を持ち、その内部に焼骨を納めた藏骨器と特殊足金具付短刀と鐵鍔が副葬されていた。土気地区における古墳の消滅過程と古墳時代から奈良時代への時代の画期を看取できる貴重な事例である。

集落跡は、古墳時代後期から継続的に営まれていた。中でも軒数が945軒を数える黒ハギ遺跡は、土気地区の拠点的集落跡であることが明らかとなった。堅穴住居跡からは、日用品の他に墨書き土器をはじめとする文字資料が数多く出土した。また、把手付中空円面硯や度量衡に関わる遺物（權・計量外）という土気東遺跡群における官人層の存在を想定できる遺物も出土した。

中・近世：黒ハギ遺跡の北側と南側から居館跡もしくは屋敷跡と思われる区画跡が検出された。その時期は13～15世紀代が中心で様々な中世陶器が数多く出土した。また、南側の屋敷跡からは、地鎮のために埋納されたアマガサも出土した。

土気地区は、周辺の遺跡群の調査成果により、古代の上総国の中で重要な役割を演じていたことが以前より知られていた。しかし、その基盤となる集落跡の存在が長年の課題であった。今回の土気東遺跡群の調査により、土気東遺跡群（特に黒ハギ遺跡）が土気地区の拠点的集落跡であることが判明したことは大きな成果と言えよう。



土氣東遺跡群 遺跡群構成模式図

報告書抄録

ふりがな	ちばしとけひがしいせきぐんちょうさがいほう						
書名	千葉市土気東遺跡群調査概報						
副書名	黒ハギ遺跡・奥房台遺跡・五十石西遺跡・五十石遺跡・北河原坂第1遺跡・長塚遺跡・上塚遺跡・文六西第1遺跡・文六西第2遺跡・文六東第1遺跡・文六東第2遺跡・宮台遺跡						
巻次							
シリーズ名	千葉市土気東遺跡群						
シリーズ番号	第2冊目						
編著者名	塙原 勇人						
編集機関	財団法人 千葉市教育振興財團 理藏文化財調査センター						
所在地	〒260-0814			TEL: 043-266-5433			
発行年月日	2009年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード		経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
黒ハギ遺跡	緑区土気町270他	12104	緑区302	北緯 35° 31' 35" 東経 140° 16' 48"	19970801 ~ 20080731	168,463 m ²	
奥房台遺跡	緑区土気町1817-5他	12104	緑区303	北緯 35° 31' 23" 東経 140° 16' 50"	19990401 ~ 20010131	10,510 m ²	
五十石西遺跡	緑区土気町1818-1他	12104	緑区	北緯 35° 31' 22" 東経 140° 16' 40"	19991201 ~ 20000124	1,450 m ²	
五十石遺跡	緑区土気町1824	12104	緑区328	北緯 35° 31' 22" 東経 140° 16' 34"	20010820 ~ 20070918	18,570 m ²	
北河原坂第1遺跡	緑区小食土町742-16他	12104	緑区348	北緯 35° 31' 22" 東経 140° 16' 24"	20021001 ~ 20070326	1,627 m ²	
長塚遺跡	緑区土気町1839他	12104	緑区331	北緯 35° 31' 19" 東経 140° 16' 42"	20010201 ~ 20080307	36,920 m ²	土気東土地区 画整理事業
上塚遺跡	緑区小食土町734-5他	12104	緑区330	北緯 35° 31' 15" 東経 140° 16' 37"	20010201 ~ 20090327	39,530 m ²	
文六西第1遺跡	緑区小食土町1170-16他	12104	緑区333	北緯 35° 31' 13" 東経 140° 16' 26"	20001211 ~ 20021220	590 m ²	
文六西第2遺跡	緑区小食土町1169-15他	12104	緑区	北緯 35° 31' 10" 東経 140° 16' 21"	20020801 ~ 20080521	750 m ²	
文六東第1遺跡	緑区小食土町1170-21他	12104	緑区334	北緯 35° 31' 8" 東経 140° 16' 32"	20041001 ~ 20041028	1,000 m ²	
文六東第2遺跡	緑区小食土町1169-8他	12104	緑区	北緯 35° 31' 7" 東経 140° 16' 30"	20001106 ~ 20080522	5,950 m ²	
宮台遺跡	緑区小食土町967他	12104	緑区	北緯 35° 31' 3" 東経 140° 16' 23"	20001121 ~ 20080624	2,430 m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒八平遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 5軒	縄文土器（早期・前期・中期・後期）、縄文時代石器	
			炉穴群 51基		
			土壤 206基		
	古墳群	古墳時代			
			古墳 5基	直刀、鉄鏃、金銅製耳環、勾玉、管玉、切子玉、丸玉	
	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡 945軒		
			掘立柱建物跡 231棟	土師器・須恵器・瓦・砥石・紡錘車・鐵器	墨書き土器。石製椎
			土壤 138基		
	星敷跡・墓域	中・近世	掘立柱建物跡 55棟		
			道・溝状遺構 55条		
			台地整形区画 10ヶ所		
			地下式坑 14基	陶器・古錢	
			塚 1基		
			火葬跡 32基		
奥房台遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 2軒	縄文土器（早期・前期・中期・後期）、縄文時代石器	
			炉穴群 13基		
			土壤 44基		
	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡 945軒	土師器・須恵器・瓦・砥石・紡錘車・鐵器	墨書き土器
			掘立柱建物跡 231棟		
			土壤 138基		
	墓域	奈良時代	方形区画墓 9基	麻痺骨・焼骨	
			溝 4条		
五十石西遺跡	土壤	縄文時代	土壤 206基	縄文土器、縄文時代石器	
	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡 1軒	土師器・須恵器	
			土壤 2基		
	土壤	中・近世	土壤 3基		
			道・溝状遺構 4条		
五十石遺跡	石器集中区	旧石器時代	石器集中区 2ヶ所	剥片	
			炉穴群 13基	縄文土器（早期）、縄文時代石器	
			土壤 5基		
	古墳	古墳時代	古墳 1基		
	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡 25軒	土師器・須恵器・瓦・砥石・紡錘車・鐵器	
			掘立柱建物跡 17棟		把手付中空円面鏡
			土壤 3基		
	墓域	奈良時代	方形区画墓 11基	麻痺骨・焼骨・足金具付短刀・鐵鏃	
			溝 9条		
	土壤	中・近世	土壤 28基		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北河原坂第1遺跡	石器集中区	旧 石 器 時 代	石器集中区 1ヶ所	剥片	
	土壤	縄 文 時 代	土壤 2基		
	古墳	古 墳 時 代	古墳 2基	直刀、鉄鏃	
	墓域	奈 良 時 代	方形区画墓 1基		
	土壤	中 ・ 近 世	土壤 1基		
	溝		道・溝状遺構 12条		
長塚遺跡	石器集中区	旧 石 器 時 代	石器集中区 1ヶ所	剥片	
	土壤	縄 文 時 代	伊穴群 26基 土壤 39基	縄文土器、縄文時代石器	
	古墳群	古 墳 時 代	古墳 7基	直刀、鉄鏃、刀子	
	集落跡	古 境 ~ 平 安 時 代	堅穴住居跡 105軒		
			掘立柱建物跡 11棟	土師器、須恵器、瓦・砥石、防錘車・鐵器	
			土壤 1基		
	土壤	中 ・ 近 世	土壤 1基		
	溝		道・溝状遺構 78条		
上塚遺跡	石器集中区	旧 石 器 時 代	石器集中区 3ヶ所	剥片	
	土壤	縄 文 時 代	集石跡 1ヶ所 土壤 47基	縄文土器、縄文時代石器	
	古墳群	古 墳 時 代	古墳 7基		
	集落跡	古 境 ~ 平 安 時 代	堅穴住居跡 122軒		
			掘立柱建物跡 51棟	土師器、須恵器、瓦・砥石、防錘車・鐵器	
			土壤 1基	墨書き土器	
	墓域	奈 良 時 代	方形区画墓 6基	鐵軒	
	溝	中 ・ 近 世	道・溝状遺構 23条		
文六西第1遺跡			検出遺構なし	遺物なし	
文六西第2遺跡	土壤	縄 文 時 代	土壤 2基	遺物なし	
文六東第1遺跡			検出遺構なし	遺物なし	
文六東第2遺跡	土壤	縄 文 時 代	土壤 8基	遺物なし	
	墓域	奈 良 時 代	方形区画墓 2基	須恵器	
宮台遺跡	石器集中区	旧 石 器 時 代	石器集中区 1ヶ所	剥片	
	土壤	縄 文 時 代	土壤 8基	遺物なし	
	溝	中 ・ 近 世	道・溝状遺構 1条		
要約			土気東遺跡群は、千葉市東南端にあたる緑区土気町・小食士町に位置し、西侧には昭和の森遺跡群と接している。本遺跡群は、鹿島川と村田川源流域の分水嶺付近の標高90～94mを測る台地上に立地する。計12ヶ所の遺跡は、小支谷と遺構の分布状況から、黒ハゲ遺跡、夷房台遺跡、五十石遺跡、五十石西遺跡、北河原坂第1遺跡・長塚遺跡・上塚遺跡、文六西第1遺跡、文六西第2遺跡、文六東第1遺跡、文六東第2遺跡・宮台遺跡の計4ヶ所のグループに大別でできると考えられる。本遺跡群の時代は、旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良～平安時代・中・近世と多岐に渡るが、古墳～平安時代が本遺跡群の中心をしている。集落跡は、古墳時代後期から継続的に営まれており、中でも軒数が94軒を数える黒ハゲ遺跡は、土気地区における拠点的集落跡拠点の集落跡であることが判明した。出土した遺物の中で、特に石製權、手付中空円面鏡、墨書き土器は、地城史の古代史像を構築する上で重要な存在である。		

千葉市土気東遺跡群
平成21年3月31日発行

編集・発行 千葉市土気東土地区画整理組合
財団法人 千葉市教育振興財團
埋蔵文化財調査センター
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
TEL : 043-266-5433

印 刷 有限会社 アイベックス
〒263-0001
千葉市稻毛区長沼原町373-13
TEL : 043-216-6715